

第4期仁淀川地域アクションプランの進捗状況確認資料
(令和4年度)

仁 淀 川 地 域 本 部

令和5年2月9日(木)

1 地域アクションプランの令和4年度第3四半期の実施状況と令和5年度の展開（総括）

(1) 総評

令和4年度は、全34項目のアクションプランそれぞれの目標達成を通して事業目的の実現化を図るため、アクションプランごとに実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議や進捗管理、各種支援制度の活用など、取り組みを進めてきた。

こうした中で、新型コロナウイルス感染症のワクチンが普及したことなどにより、一時は重症化率等が低下したものの、再び、新規感染者数や重症者数ともに全国的に増加傾向にある。

また、世界的なインフレや円安による原材料等の価格上昇に伴うコストの増加などを要因として、国内では急激な物価上昇が起きている。

これらの状況次第では、消費マインドの低下や行動の変化を通じて、消費が下押しされることが懸念されるため、今後の動向を注視していく必要がある。

産業分野別の実施状況については、次のとおりである。

農業分野では、トマトの生産拡大において栽培講習会や現地検討会での栽培技術指導、個別巡回による栽培指導の徹底を図ることによって、トマトの出荷量、販売実績額の増加に向けて取り組んでいる。さらに、産地の確立だけではなく、特産品の開発や販路拡大、情報発信の強化に取り組み、日高村の知名度の向上及び移住促進など地域の活性化に向けた取り組みとも連携しながら進めている。

林業分野では、仁淀川町において日報管理システムを活用し、川上と川下を連携させたサプライチェーンマネジメントの取り組みが始まっている。また、平成31年4月から施行された森林経営管理法に基づく、新たな森林経営管理制度の円滑な運用に向けた協議を行うとともに、より一層の原木の増産と安定確保を目指して管内市町村及び森林組合との協議を進めるなど、地域の関係者とともに林業・木材産業の振興に取り組んでいる。

水産業分野では、(株)土佐マリンベースが水産加工施設等整備事業費補助金を活用して新たに整備した水産加工施設が本年度から稼働しており、ブリやマダイなどの養殖魚の産地加工体制を構築することで、養殖漁業等の振興、地元雇用の創出などの取り組みを進めている。

商工業分野では、仁淀川町を拠点にMUKAI CRAFT BREWING(株)が仁淀川水系の湧水で地元食材(茶葉や生姜など)を副原料に、主原料であるホップの一部を町内産で賄うなど、地域にこだわるとともに、地域に根ざしたクラフトビールの製造・販売を展開することで、地域ブランド力の強化に取り組んでいる。また、佐川町においては、さらなる交流人口の拡大と地域経済の活性化を図るため、「まきのさんの道の駅・佐川」の令和5年7月開業を目指し、本体工事の施工や道の駅の運営が円滑に進むよう取り組ん

であり、いの町においても、中心商店街の活性化に向けて、商店街事業者、関係団体、地元住民などで構成する「いの町中心市街地活性化協議会」による推進体制の下で、「中心市街地活性化計画」に基づくプランの実行に取り組んでいる。

観光分野では、コロナ禍においてアウトドア市場が盛況で、その中でもキャンプブームが続いていることを追い風に、越知町の「スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド」を拠点として、キャンプの魅力を伝え、手軽にキャンプを楽しみたい方やキャンプ初心者も取り込むことで賑わいを創出し、交流人口の拡大や地域の活性化に向けて取り組んでいる。また、令和5年春からのNHK連続テレビ小説「らんまん」の放送を絶好の機会と捉え、観光振興に最大限生かすため、高知県観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」の開催等を通じて、草花や自然、食や歴史など、高知県の魅力を満喫していただけるよう、市町村や関係機関とも連携しながら取り組みを進めている。

令和5年度は、新たに、観光分野で地域アクションプランとして「仁淀川町滞在型交流観光の推進」の追加やそれに合わせた統合、その他での拡充を含め、今年度と同様の全34項目で構成され、地域アクションプランごとに編成される実行支援チームにおいて、市町村や関係機関等と連携のもと各種支援制度も活用しながら、それぞれの事業目的の達成に向けて取り組んでいく。

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	【P (Plan)】							【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	1 仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進 (いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村) 【実施主体】 ◎JA高知県(仁淀川地区) ◎(農)霧山茶業組合 ◎(農)池川茶業組合	仕上茶販売量 28.4t (H30)	R2	28.5t	25.4t	B	1 生産体制の強化 <台切りによる樹勢回復の推進> ・台切り効果の検証(実証ほ調査、収量・品質) ・台切りの啓発(個別巡回) ・台切りマニュアルの検討・作成(関係機関) ・台切りマニュアルを活用した推進(部会・個別指導) <土壌改善の推進> ・分析、施肥指導、個別巡回 2 販売力の向上 <日干番茶の試作> ・日干番茶製造試験(茶業試験場) <輸出に向けた取組> ・県版GAP点検(池川茶業組合) ・病害虫発生状況の確認・調査とりまとめ(実証ほ調査)、防除暦の改善	1 生産体制の強化 <台切りによる樹勢回復の推進> ・台切り効果の検証(実証ほ調査4月3回、茶葉分析1回) ・台切りの啓発(4/11、5/25、9/29茶生産部会のべ27名) ・台切マニュアルの検討・作成(9/26茶業試験場と協議) <土壌改善の推進> ・生産部会等での呼びかけ(4/11、5/25、9/29 茶生産部会のべ27名) ・土壌分析・施肥指導 3件 2 販売力の向上 <日干番茶の試作> ・日干番茶製造試験(茶業試験場) ※4/20～21、4/27～28、6/7～8、6/13～14、6/16～17 ※日干番茶らしい日向臭(ひなたしゅう)は4時間以上の強い日干処理で発生することが分かった。 <輸出に向けた取組> ・県版GAP点検及び県版GAP学習会(6/30、9/9のべ5名) ・実証ほの一番茶収穫調査(4/23) ・実証ほ病害虫発生状況調査(5～11月19回)	※年度終了後のヒアリング調査により仕上茶の販売量を把握	(成果) ・台切り効果の検証(実証ほ)台切り3年後の台切り区一番茶収量の増加につながった(非台切り区の収量に比べて108%～136%) ・台切りマニュアルの作成 ※台切りとは「地際から、または地上10cm内外で太い幹を切る」こと。 ・日干番茶の試作 日向臭(ひなたしゅう)を得るには強い日干処理が必要であることが明らかとなった。 ・輸出向け薬剤の効果確認(実証ほ)輸出向け薬剤区が一番茶では病害虫被害は見られず、収量は慣行区より優り、代替薬剤の効果を確認できた。栽培期間を通じて病害虫の発生は少ない。 (課題) ・優良茶園の維持(台切り等による樹勢回復) ・二番茶・秋冬番茶を活用した日干番茶等の商品開発。 ・輸出先国の基準に合わせた防除暦の更新 (今後の方向性) ・台切マニュアルを用い、主に経営規模の大きい農家を主体に樹勢回復のため台切り等を推進していく。 ・二番茶・秋冬番茶を利用して日干番茶等の商品を開発していく。 ・輸出向け防除暦を輸出先国の最新基準に合わせて更新していく。	1 生産体制の強化 <台切りによる樹勢回復の推進> ・台切り効果の検証(実証ほ調査、収量・品質) ・台切りマニュアルを活用した推進(個別指導) <土壌改善の推進> ・分析、施肥指導(個別巡回) 2 販売力の向上 <日干番茶の製造> ・日干番茶製造試験(茶業試験場) <輸出に向けた取組> ・輸出向け防除暦の更新	
			R3	29.0t	25.6t	B						
			R4	29.5t								
			R5	30.0t								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
	2 漢方薬の原料となる 薬用作物の作付け拡大 と生産性の向上による仁 淀川流域産地の振興 (仁淀川町、佐川町、 越知町、日高村) 【実施主体】 (農)ヒューマンライフ土佐	(1)ミシマサイ コ栽培面積 5.7ha(R元)	R2	6.2ha	3.0ha	D	1 薬用作物の安定生産 ＜ミシマサイコ生産の拡大＞ ・現地検討会の開催 ・篤農家の管理技術(発芽促進、 除草)の周知(資料配布、総会) ・追肥、摘芯の指導 (現地検討会、巡回) ・水中曝気による発芽改善の実証 ほ設置・調査 ・実証ほ成績とりまとめ ・作付拡大に向けた意向調査 ・篤農家技術の推進 (生産者説明会) ・栽培暦見直し、経営モデルの検討 ・生産拡大の検討、実施協議 (関係機関連絡会) ・収益性改善の検討 (実証・展示ほ設置) 2 (農)ヒューマンライフ土佐の体制 強化 ・総会の開催 ・サンショウ・ダイダイ部門別生産者 会の開催 ・ミシマサイコ部門別生産者会の 開催(生産者説明会) ・ミシマサイコ新規栽培者の出荷 調整作業の受託体制整備	1 薬用作物の安定生産 ＜ミシマサイコ生産の拡大＞ ・篤農家の管理技術(発芽促進、除草、追肥、摘芯)の資 料配布、説明(6/16ヒューマンライフ総会103名) ・水中曝気による発芽改善の実証ほ設置・調査 (4/7～6/3) 2 (農)ヒューマンライフ土佐の体制強化 ・総会の開催(6/16) ・サンショウ・ダイダイ部門別生産者会の開催(6/16)	2.4ha(8月末時点) ・R4目標達成率：80.0% ・対前年同期比：88.9% ※ツムラはミシマサイコ増産に 向け奨励金を出すことにした が、対象は原種生産ほ場に 限定されており、呼応して生 産を増やした農家は対象外で あった。生産者説明会では買 い上げ単価の値上げが表明さ れた。	C (成果) ・本年度は地域全体で水中曝気処 理済み種子を用いた栽培に取り 組んだが、播種後の降水が少な かったため発芽は芳しくなく、 実証ほでも同様の結果となっ た。 (課題) ・病害予防・追肥等栽培管理技術の 向上 (今後の方向性) ・篤農家で実施されている病虫害防 除、除草、追肥の管理技術を周知 し、栽培管理技術の向上を図る。	1 薬用作物の安定生産 ＜ミシマサイコ生産の拡大＞ ・篤農家の管理技術(発芽促 進、除草)の周知(資料配 布、総会) ・追肥、摘芯の指導(巡回) ・篤農家技術の推進 (生産者説明会) ・栽培暦見直し ・取組状況の共有 (関係機関連絡会) 2 (農)ヒューマンライフ土佐の 体制強化 ・総会の開催 ・サンショウ・ダイダイ部門別生産 者会の開催 ・ミシマサイコ部門別生産者会の 開催(生産者説明会) ・ミシマサイコ新規栽培者の出荷 調整作業の受託体制整備	
R3			6.7ha	2.7ha	D							
R4			7.2ha									
R5			7.7ha									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
農業	(2)サンショウ 製品量 37.2t (H30～R元平均)		R2	40.0t	14.8t	D	1 薬用作物の安定生産 <サンショウの生産向上> ・収穫作業者の募集 ・さび病収穫前防除指導（資料配 付、発生状況調査、総会） ・サンショウマップ情報の更新による 園地情報整理 ・さび病発生状況調査を活用した 防除徹底（巡回指導） ・サンショウマップを活用した、担い手 候補者の情報交換 （関係機関連絡会） ・改植用苗木の管理指導 （巡回指導） ・土壌分析、施肥設計指導 ・剪定効果の調査（アンケート） ・担い手候補者のリストアップ ・苗木配布 ・剪定効果調査報告、剪定講習会 開催 ・栽培暦の見直し 2 (農)ヒューマンライフ土佐の体制 強化（再掲）	1 薬用作物の安定生産 <サンショウの生産向上> ・外国人収穫作業者の導入試行（8月上旬3人） ・さび病収穫前防除について指導 （6/16ヒューマンライフ総会103名） ・サンショウマップ情報の更新による園地情報整理 （6月～9月） ・担い手候補者の確保に向け、サンショウマップの活用法に ついて意見交換。 （7/21、ヒューマンライフ組合長と活用法の検討、7/12、 8/9越知町関係機関連絡会） ・さび病防除指導（7月～9月巡回指導） 2 (農)ヒューマンライフ土佐の体制強化（再掲）	※8月末で収穫終了。生産 量については対前年比90% 台になる見込み	—	(成果) ・裏年ではあったものの、多数の農家 がさび病収穫前防除を実施し、生 産の落ち込みは少ない。 (課題) ・栽培管理技術（さび病対策、追 肥、剪定等）・苗木生産技術の 向上 ・収穫労力の確保 ・担い手対策 (今後の方向性) ・追肥・剪定改善による隔年結果改 善の実証・指導。 ・改植用苗木の確保に向けた実証・ 検討 ・サンショウマップを活用した遊休園地 解消等担い手対策 ・収穫作業者の募集による収穫労力 の確保	1 薬用作物の安定生産 <サンショウの生産向上> ・収穫作業者の募集 ・さび病収穫前防除指導（資 料配付、発生状況調査、 総会） ・さび病発生状況調査を活用し た防除徹底（巡回指導） ・サンショウ産地振興のためのサ ンショウマップの活用（関係機 関連絡会） ・改植用苗木の安定生産の検 討（実証ほ、巡回指導） ・土壌分析、施肥設計指導 ・剪定効果の調査 （アンケート） ・担い手候補者のリストアップ ・苗木配布 ・剪定効果調査報告、剪定講 習会開催 ・栽培暦の見直し 2 (農)ヒューマンライフ土佐の 体制強化（再掲）
			R3	40.0t (R2～3平均)	22.9t (R2～3平均)	D						
			R4	40.0t (R2～4平均)								
			R5	40.0t (R2～5平均)								
	(3)ダイダイ 製品量 13.6t(R元)		R2	18.5t	16.0t	B	1 薬用作物の安定生産 <ダイダイの生産向上> ・導入乾燥機の試運転 ・枳実出荷説明会 ・苗木配布 ・剪定講習会開催 2 (農)ヒューマンライフ土佐の体制 強化（再掲）	1 薬用作物の安定生産 <ダイダイの生産向上> ・導入乾燥機の試運転(4～6月) ・病害対策指導（6/16枳実出荷説明会） 2 (農)ヒューマンライフ土佐の体制強化（再掲）	※第3四半期以降のヒアリン グ調査により出荷量を把 握。	—	(成果) ・乾燥機は良好に稼働し、出荷受け 込み、貯冷、乾燥調整の作業が 遅滞なく進んだ。また、出荷規格 変更により単価が向上した。 (課題) ・栽培面積の拡大、剪定・病虫害 対策 (今後の方向性) ・栽培面積の拡大に向け、呼びかけ を続ける。	1 薬用作物の安定生産 <ダイダイの生産向上> ・枳実出荷説明会 ・苗木配布 ・剪定講習会開催 2 (農)ヒューマンライフ土佐の 体制強化（再掲）
			R3	21.5t	15.5t	C						
			R4	24.3t								
			R5	26.6t								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (%)	現状分析	
	3 日高村まるごとブランド化(日高村) 【実施主体】 ◎・日高村 ◎・JA高知県(仁淀川地区) ・JA高知県日高支所ハウス園芸部会 ・(株)コスモスアグリサポート ・(株)イチネン高知日高村農園 ・日高村商工会 ・(特非)日高わのわ会 ・(農)霧山茶業組合 ・(株)村の駅ひだか ※地域産業クラスター関連(日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト)	農産物の販売額 5.4億円 (H30)	R2	5,63億円	7.51億円	S	1 経営管理能力及び生産力の向上 ・要望に応じて講習会や個別指導等を行い、栽培技術の向上を図る ・栽培講習会や現地検討会での栽培技術指導 ・作業進捗状況及び労務管理状況確認 ・IoT技術を活用した生産技術向上に向けた取組 ・出荷実績調査 2 農業経営体の確保・育成 ・JA高知県が運営する無料職業紹介所の活用 ・研修期間に使用する作業チェックリストの見直し ・就農支援体制強化に向けた協議会開催の支援 ・就農者受け入れ体制の検討、進捗状況の確認 ・経営実績による経営改善目標の作成 ・個別カウンセリングによる経営目標設定 ・経営目標到達状況確認 3 販売力の向上 ・市場関係者との定期的な協議及び情報の共有 ・JA、園芸連等との予約相対期間等の再検討 ・県版GAPの取り組み状況の点検 ・高糖度トマトに係る販売会議の開催	(4月1日～10月30日) 1 経営管理能力及び生産力の向上 ・栽培講習会及び現地での検討会：7回延べ94戸 ・個別巡回による栽培指導：37回延べ223戸 ・就農希望者との面談：2回 ・産地提案書の見直し：1回 ・法人雇用実態調査：1回 ・JA高知県が運営する無料職業紹介所の活用に関する協議：1回 ・IoT技術の活用に向けた栽培や出荷に関するデータの集約：1回 2 農業経営体の確保・育成 ・経営実態調査：2回 ・農家への経営カウンセリング：2回 ・経営目標調査：2回 3 販売力の向上 ・県版GAP点検：3回 ・夏秋トマトの販売会議：1回 ・促成高糖度トマト販売会議：1回	3.61億円(10月末時点) ・R4目標達成率:107.6% ・対前年同期比:117.4%	A	(成果) 園芸年度での評価(4/1～10/30) ・促成高糖度トマト販売数量160,054kg(前年比127%) ・促成大玉トマト494,96kg(前年比38%) ・促成ミニトマト21,675kg(前年比92%) ・夏秋高糖度トマト34,593kg(前年比99%) (課題) 栽培面積200a減(促成高糖度トマト△70a、促成大玉トマト△120a)により販売金額減が見込まれ、R5年度に向け空きハウスへの就農者補充など栽培面積確保が課題 (今後の方向性) 1) 栽培指導(月例会・個別巡回等への支援) 2) 経営指導 3) 研修者への支援体制の強化 4) 空きハウスへの就農者の補充 5) 販売会議(高糖度トマト)の開催	1 経営管理能力及び生産力の向上 ・要望に応じて講習会や個別指導等を行い、栽培技術の向上を図る ・栽培講習会や現地検討会での栽培技術指導 ・作業進捗状況及び労務管理状況確認 ・IoT技術を活用した生産技術向上に向けた取組 ・出荷実績調査 2 農業経営体の確保・育成 ・JA高知県が運営する無料職業紹介所の活用 ・研修期間に使用する作業チェックリストの見直し ・就農支援体制強化に向けた協議会開催の支援 ・就農者受け入れ体制の検討、進捗状況の確認 ・経営実績による経営改善目標の作成 ・個別カウンセリングによる経営目標設定 ・経営目標到達状況確認 3 販売力の向上 ・市場関係者との定期的な協議及び情報の共有 ・JA、園芸連等との予約相対期間等の再検討 ・県版GAPの取り組み状況の点検 ・高糖度トマトに係る販売会議の開催

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	「オムライス街道」によるオムライス販売数 55,475食 (R元見込み)		R2	57,000食	46,965食	C	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道スタンプラリー第9弾の実施、新メニューの開発 ・R5年度のオムライス街道10周年を見据えた事業展開	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道スタンプラリー第9弾の実施 (R4/6/12～R5/3/26) ・オムライス街道スタンプラリー第9弾キックオフイベント (6/12)	37,568食 (11月末時点) ・R4目標達成率：95.5% ・対前年同期比：116.8%	B	(成果) ・対前年比オムライス販売数の増加 (課題) ・コロナ禍による移動自粛 ・オムライス街道の新規加盟店の開拓 (今後の方向性) ・SNSやチラシ等を活用したオムライス街道の周知の継続 ・新規加盟店の開拓	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道スタンプラリー第10弾の実施、新メニューの開発 ・日高村産トマトを活用した新たなイベントの構築
			R3	58,000食	47,861食	C						
			R4	59,000食								
			R5	60,000食								
	商品・加工品開発件数 23件 (H28～30累計)		R2	6件	6件	A	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道事業参加店舗による新メニューの開発 ・産業振興アドバイザー制度（課題一貫支援型）を活用した（特非）日高わのわ会の経営支援に関する協議 ・産業振興アドバイザー制度（課題解決型）を活用した新たなトマト加工施設整備に関する協議（R4協議・計画作成・申請、R5整備予定） ・「村の駅ひだか」直販市の機能強化（駐車場拡大による集客力向上（受入体制の強化）） 2 日高村アグリネットワークの連携強化 ・日高村アグリネットワーク会議の開催 ・県外への特産品等販促活動の実施	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・産業振興アドバイザー制度（課題解決一貫支援型）を活用した（特非）日高わのわ会の経営支援に関する協議：1回 ・産業振興アドバイザー制度（課題解決型）を活用した（特非）日高わのわ会の新規加工所建設（増設）に関する協議：1回 ・「村の駅ひだか」駐車場拡大工事完了	4件（11月末時点） ・R4目標達成率：100.0% ・対前年同期比：80.0%	A	(成果) ・日高わのわ会の経営状態の改善 (課題) ・日高わのわ会のトマト加工施設が手狭で効率が低い (今後の方向性) ・産振ADの有効活用(販路拡大等) ・日高わのわ会の新たな加工施設を含む複合施設建設に向けた日本財団補助金の申請	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・オムライス街道事業参加店舗による新メニューの開発 ・日高わのわ会の複合施設建設に向けた日本財団補助金の申請 2 日高村アグリネットワークの連携強化 ・日高村アグリネットワーク会議の開催 ・県外への特産品等販促活動の実施
			R3	6件	5件	C						
			R4	6件								
			R5	25件 (R2～R5累計)								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
	村外からの移住者数12組(H28～H30)の累計)		R2	5組	9組	S	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・移住相談への対応 ・空き家情報の集約、空き家の改修 ・移住フェアへの参加	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・移住相談件数：延べ45件(11月末時点) ・移住相談への対応 ・空き家の改修 ・移住フェアへの参加	5組(11月末時点) ・R4目標達成率：150.0% ・対前年同期比：71.4%	S	(成果) ・村外からの移住者(5件) (課題) ・移住希望者の住居の確保 (今後の方向性) ・空き家の現況調査の実施	1 「日高まるごとイタリアプロジェクト」の推進 ・移住相談への対応 ・空き家情報の集約、空き家の改修 ・移住フェアへの参加
R3			5組	10組	S							
R4			5組									
R5			20組(R2～R5累計)									
	新規就農者数19名(H28～H30累計)		R2	1名	3名	S	1 農業経営体の確保・育成 ・産地提案書の見直し ・就農相談への対応 ・就農者受け入れ体制の検討、進捗状況の確認 ・新・農業人フェアへの参加 ・研修生の栽培技術習得に向けた支援	1 経営管理能力及び生産力の向上 ・産地提案書の見直し 1回 ・就農希望者との面談(農家子弟)：4回 ・栽培学習会 4回	0人(11月末時点) ・R4目標達成率：0% ・対前年同期比：0%	-	(成果) ・就農希望者1名の研修が始まった(担い手育成センター4/1～6/30、日高村現地7/1～) ・就農希望者1名の研修が始まった(担い手育成センター12/1～) (課題) ・就農者受け入れ体制の充実及び確保 ・農地の確保 (今後の方向性) ・研修生の就農体制及び技術習得に向けての支援	1 農業経営体の確保・育成 ・就農相談への対応 ・研修生の栽培技術習得に向けた支援
R3			1名	2名	S							
R4			1名									
R5			4名(R2～R5累計)									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	4 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト (いの町) 【実施主体】 ◎・いの町 ・JA高知県 (仁淀川地区) ・いの町商工会 等	生姜出荷量650 t (H30)	R2	665 t	680 t	A	1 生産・販売体制の強化 ・土壌病害防除指導 ・GAP点検支援(生産者・出荷場) ・市場事故対策支援PT会 ・いの町管内小学校で出前授業の実施 ・新規就農者の確保支援 ・新規就農者へのサポートチームによる個別面談及び記帳指導 2 生姜加工品の開発・販路拡大 ・芽生姜の採取・しそ酢漬け商品化に向けた調整 ・芽生姜のしそ酢漬け各種検査機関へ提出 ・規格外生姜の無償提供の取り組み 3 生姜を核としたいの町の振興 ・町内イベント (神楽と鮎と酒に酔うin 仁淀ブルー、Kami祭等) での伊野地区生活改善グループによる生姜料理ふるまい、消費拡大に向けたPR ・いの生姜焼き街道での生姜焼きメニュー提供 ・生姜焼き街道のSNS発信強化 ・Kami祭での生姜量り売り販売	1 生産・販売体制の強化 ・生育異常株の診断及び防除指導 23件 ・講習会での土壌病害防除指導 2件 ・JA出荷場のGAP点検支援 4回 ・市場事故対策支援PT会の開催 7回 ・いの町管内小学校出前授業の事前打ち合わせ 2回 ・就農に向けた研修生面談 5人 ・新規就農者ほ場確認 4回 ・新規就農者への簿記記帳指導 3回 2 生姜加工品の開発・販路拡大 ・いの町生姜生産・販売拡大クラスターPT会 2回 ・クラスター事業実施主体との関係者協議 10回 ・芽生姜のしそ酢漬け 商品化に向けた試作開始・配合確定 ・しそ酢漬けの衛生面について工業技術センターへ相談、pH測定、官能評価、菌検査等の実施 ・芽生姜のしそ酢漬け完成→にこここ館、イベントでの販売 3 生姜を核としたいの町の振興 ・Kami祭での伊野地区生活改善グループによる生姜料理 (生姜ごはん、生姜のかき揚げ) ふるまい、消費拡大に向けたPR (レシピ配布) (11/23) ・いの生姜焼き街道での生姜焼きメニュー提供 (通年) ・生姜焼き街道のSNS (Instagram) での発信強化 (週1回投稿) ・Kami祭での地元高校生による生姜量り売り、生姜い物早食いコンテスト、生姜焼き街道事業者出店 (11/23)	- t (データが出るのは1月)	※	(成果) ※生産・販売体制の強化 ・病害指導を実施することで早期防除に繋がった ・GAP点検指導により、衛生管理など5つの点で改善に繋がった ・研修生の面談により研修状況が確認できた ・記帳内容が確認できた ・就農に向けた相談及び就農計画作成ができた ※生姜加工品の開発・販路拡大 ・芽生姜のしそ酢漬けの配合が確定し、商品化に向けた検査等を進めている ・芽生姜のしそ酢漬けの完成 (課題) ・出荷量アップに向けた病害対策等と担い手の確保 ・市場事故防止対策の徹底 ・就農に向けた支援及び就農後の経営の安定 ・生姜のまち「いの」定着に向けたPR強化 (今後の方向性) ※生産・販売体制の強化 ・市場事故防止に向けた支援体制の強化 ・就農支援体制の強化及び経営支援	1 生産・販売体制の強化 ・土壌病害防除指導 ・GAP点検支援 (生産者・出荷場) ・市場事故対策支援PT会 ・いの町管内小学校で出前授業の実施 ・新規就農者の確保支援 ・新規就農者へのサポートチームによる個別面談及び記帳指導 2 生姜加工品の開発・販路拡大 ・芽生姜加工品の販売強化 ・規格外生姜の無償提供の取り組み 3 生姜を核としたいの町の振興 ・いの生姜焼き街道での生姜焼きメニュー提供 ・生姜焼き街道のSNS発信強化 ・Kami祭での伊野地区生活改善グループによる生姜料理ふるまい、消費拡大に向けたPR ・Kami祭での生姜量り売り販売
			R3	680 t	825 t	S						
			R4	690 t								
			R5	700 t								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	5 本川手箱きじの販路拡大 (いの町) 【実施主体】 ・◎本川手箱きじ生産企業組合 ・いの町	きじ販売額 1,419万円 (H30)	R2	1,920万円	1,418万円	C	1 営業力の強化による販路拡大 ・定例会の開催 ・県商談会への参加 ・きじ認知度向上のためイベントへの出展 2 安定した生産体制の確保 ・きじミッションの地域おこし協力隊の雇用 3 衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修 ・衛生管理マニュアルに沿った運用	1 営業力の強化による販路拡大 《定例会の開催》隔月 《県商談会への参加》 ・10月県産品商談会参加 ・11月関西版県商談会参加 《イベント出展》 ・4月・12月UFOラインウォークイベントできじスープ提供 ・5月こうち畜産フェア出展 ・9月土佐フード祭り出展 ・10月仁淀ブルー体験博参加 ・11月防災フェスタ、龍馬生誕祭出展 《その他》 ・個別商談の実施 44件 (11月時点) ・5月子じの雛孵化プレスリリース 高知新聞に掲載 ・11月名古屋企業との商談及び販路拡大のための協議 ・11月自社オンラインショップ決済手続きの簡素化 ・11月～いの町観光協会オンラインショップできじフェア開催 ・11月スープストックトーキョーで本川手箱きじがらを使ったスープ販売開始 ・12月県庁職員向け特別販売を実施 2 安定した生産体制の確保 ・4月地域おこし協力隊の採用 ・5月貯卵用保冷库改修、保湿施設設置 3 衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修 ・家畜保健所による検卵および受精率等の向上に関する指導 (4月～8月) 4回 ・衛生管理マニュアルに準じた衛生管理 (通年)	737万円 (11月末時点) ・R4目標達成率：41.2% ・対前年同期比：103.8%	D	(成果) ・取引開始5件 ・地域おこし協力隊の採用 ・生産効率の向上 (対前年：受精率34.3%上昇、対入卵孵化率6.6%上昇) (課題) ・食材としてのきじの認知度向上 ・個人向け販売の強化 ・既存取引先との取引継続 (今後の方向性) ・既存取引先も含めた営業強化 ・イベント出展やプレスリリースによるPR	1 営業力の強化による販路拡大 ・定例会の開催 ・県商談会への参加 ・きじ認知度向上のためイベントへの出展及び情報発信の強化 ・既存取引先への営業強化 2 安定した生産体制の確保 ・生産技術維持のための指導・教育 3 衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修 ・衛生管理マニュアルに沿った運用
			R3	2,278万円	1,297万円	D						
			R4	2,682万円								
			R5	2,951万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
農業	6 越知町を中心とした 食用山椒の生産体制の 確立と販売促進 (越知町) 【実施主体】 越知町山椒組合	食用山椒 出荷量 19.0 t (H29～30平均)	R2	21 t	9.2t	D	<ul style="list-style-type: none"> 1 山椒の安定的な生産の確立 <ul style="list-style-type: none"> 園地確保方策の検討、新たな担い手への園地斡旋、労働力確保対策の検討 総会での生産方針の確定 さび病収穫前防除指導、緩効性肥料による礼肥の周知（資料配付、発生状況調査、総会） サンショウマップ情報の更新による園地情報整理 さび病発生状況調査を活用した防除徹底（巡回指導） サンショウマップを活用した担い手候補者の情報交換（関係機関連絡会） 改植用苗木の管理指導（巡回指導） 土壌分析、施肥設計指導 剪定効果の調査（アンケート） 接ぎ木講習会の開催 老齢木の改植推進 担い手候補者のリストアップ 剪定効果調査報告、剪定講習会開催 栽培暦の見直し 2 加工品利用の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ユーザーのニーズ分析、出荷条件の交渉 	<ul style="list-style-type: none"> 1 山椒の安定的な生産の確立 <ul style="list-style-type: none"> 総会での生産方針の確定(4/16) さび病収穫前防除指導、緩効性肥料による礼肥の周知（4/16総会での資料配付29名） サンショウマップ情報の更新による園地情報整理（6月～9月） さび病発生状況調査を活用した防除徹底（7月～9月巡回指導） 担い手候補者の確保に向け、サンショウマップの活用法について意見交換（7/27山椒組合幹部と活用法の検討、7/12、8/9越知町関係機関連絡会） 2 加工品利用の拡大 <ul style="list-style-type: none"> 各ユーザーと出荷条件の交渉（4月～6月） 	※第3四半期以降のヒアリング調査により出荷量を把握。	—	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 裏年ではあったものの、多くの農家がさび病収穫前防除を実施し、生産の落ち込みは少ない。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培管理技術（さび病対策、追肥、剪定等）の向上 収穫労力の確保 担い手対策 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 追肥・剪定改善による隔年結果改善の実証・指導 サンショウマップを活用した遊休園地解消等担い手対策 	<ul style="list-style-type: none"> 1 山椒の安定的な生産の確立 <ul style="list-style-type: none"> 園地確保方策の検討、新たな担い手への園地斡旋、労働力確保対策の検討 総会での生産方針の確定 さび病収穫前防除指導、緩効性肥料による礼肥の周知（資料配付、発生状況調査、総会） さび病発生状況調査を活用した防除徹底（巡回指導） 山椒産地振興のためのサンショウマップの活用（関係機関連絡会） 改植用苗木の管理指導（巡回指導） 土壌分析、施肥設計指導 剪定効果の調査（アンケート） 接ぎ木講習会の開催 老齢木の改植推進 担い手候補者のリストアップ 剪定効果調査報告、剪定講習会開催 栽培暦の見直し 2 加工品利用の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ユーザーのニーズ分析、出荷条件の交渉
			R3	19.0t (R2～3平均)	13.6t (R2～3平均)	C						
			R4	20.3t (R2～4平均)								
			R5	19.2 t (R2～5平均)								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
林業	7 仁淀川流域における林業・木材産業の振興 (仁淀川地域全域) 【実施主体】 ◎・林業事業者 ・森林組合 ・素材生産業者 ・製材業者 ・自伐林家等	(1)原木生産量 9.8万㎡ (H30)	R2	10.5万㎡	9.5万㎡	B	1 施業地確保や集約化による原木生産推進 ・素材生産量調査による生産状況の情報収集 ・森林経営計画・森の工場計画の作成及び実行指導 ・皆伐作業道等の整備 ・中央西地区増産・再造林推進協議会の開催 ・森林経営管理制度林業事務所ワーキングの開催 ・地形データ、森林資源データの市町村配付 ・中央西地区路網整備促進会議の開催 ・森林クラウドの部分運用開始 2 事業体の育成 ・仁淀川町林業研修生受け入れ ・仁淀川町における苗木生産施設整備の支援 ・事業戦略の実践へのフォローアップ ・スマート林業に関する情報提供 ・仁淀川町林業研修制度体験ツアーの実施及び支援 3 需給調整体制の整備 ・高性能林業機械（プロセッサ）の実証データ取得支援 ・仁淀川町日報管理・原木流通システムの構築支援 ・仁淀川町林業振興センターの落成、運営及び支援	1 施業地確保や集約化による原木生産推進 ・森林経営計画及び森の工場計画作成指導（6市町村、10事業者） ・森の工場及び原木増産個別ヒアリング（6/16：13事業者） ・新規森の工場の計画書作成（4事業者、199.97ha） ・皆伐作業道整備の交付決定：3事業者、作業道開設1,800m ・森林管理システム支援チーム会（4/18） ・森林管理システム市町村個別支援（20回） ・森林管理システム林業事務所ワーキング（6/24：第1回、9/26：第2回） ・森林管理システム市町村向け研修会（11/9） ・中央西地区増産・再造林推進協議会（2回） ・中央西地区路網整備促進会議（延期） 2 事業体の育成 ・事業戦略策定支援（新規1事業者） ・林業事業者及び製材事業者との意見交換会（22社） ・自伐林家等林業機械レンタルの交付決定（5名、8台） ・仁淀川町林業研修生の受け入れ（6名） ・仁淀川町林業研修制度体験ツアーの実施及び支援（2回） 3 需給調整体制の整備 ・仁淀川町SCM意見交換会等（2回） ・林業振興センターの竣工（7/28） ・仁淀川町SGEC協議会（日報管理・原木流通システムの改良）（1回） ・施業提案システムの改良支援（2回） ・仁淀川町森林保全基金設立	3.79万㎡(9月末時点) ・R4目標達成率：65.9% ・対前年同期比：106.6%	D	(成果) ・森林経営管理制度、森林経営計画及び森の工場の取組支援により施業地の確保が着実に進んでいる。 ・高性能林業機械の導入により生産性の向上につながっている。 (課題) ・管内関係機関が連携した安定的な担い手・事業地の確保 ・林業事業者の安定的経営や技術力の継続的な向上 ・森林経営管理制度の円滑な運用 ・製材工場への安定的な供給体制の構築 ・皆伐後の再造林及び下刈りを行う作業員不足 (今後の方向性) ・引き続き、施業地の集約化や高性能林業機械の導入により、生産性の向上を図る。	1 施業地確保や集約化による原木生産推進 ・素材生産量調査による生産状況の情報収集 ・森林経営計画・森の工場計画の作成及び実行指導 ・皆伐作業道等の整備 ・中央西地区増産・再造林推進協議会の開催 ・森林経営管理制度林業事務所ワーキングの開催 ・中央西地区路網整備促進会議の開催 ・森林クラウドの部分運用開始 2 事業体の育成 ・仁淀川町林業研修生受け入れ ・仁淀川町における苗木生産施設整備の支援 ・事業戦略の実践へのフォローアップ ・スマート林業に関する情報提供 ・仁淀川町林業研修制度体験ツアーの実施及び支援 3 需給調整体制の整備 ・高性能林業機械（プロセッサ）の実証データ取得支援 ・仁淀川町日報管理・原木流通システムの構築支援 ・仁淀川町林業振興センターの運営支援
			R3	11.0万㎡	10.3万㎡	B						
			R4	11.5万㎡								
			R5	12.0万㎡								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
		(2)仁淀川林産協同組合集材センター集荷量3.5万㎡(H30)	R2	4.0万㎡	3.7万㎡	B	1 需給調整体制の整備(再掲) ・高性能林業機械(プロセッサ)の実証データ取得支援 ・仁淀川町日報管理・原木流通システムの構築支援 ・仁淀川町林業振興センターの落成、運営及び支援 2 大型製材工場の生産・経営力の強化 ・原木調達、受注、稼働状況の情報収集	1 需給調整体制の整備(再掲) ・仁淀川町SCM意見交換会等(2回) ・林業振興センターの竣工(7/28) ・仁淀川町SGEC協議会(日報管理・原木流通システムの改良)(1回) ・施業提案システムの改良支援(2回) 2 大型製材工場の生産・経営力の強化 ・進捗管理及び情報収集(2回)	1.93万㎡(9月末時点) ・R4目標達成率:74.2% ・対前年同期比:107.0%	C	(成果) ・日報管理システムの導入などによるスマート林業化が実現につながっている。 ・仁淀川町林業振興センターが開設された。 ・仁淀川町SCM協議会が立ち上げられた。 (課題) ・仁淀川町における原木流通システムの構築 (今後の方向性) ・仁淀川流域のSCMの構築やSGEC取得による森林認証システムの構築	1 需給調整体制の整備(再掲) ・高性能林業機械(プロセッサ)の実証データ取得支援 ・仁淀川町日報管理・原木流通システムの構築支援 ・仁淀川町林業振興センターの運営支援 2 大型製材工場の生産・経営力の強化 ・原木調達、受注、稼働状況の情報収集
		R3	4.6万㎡	3.6万㎡	C							
		R4	5.2万㎡									
		R5	5.8万㎡									
	8 仁淀川地域における地域性の高い特用林産物の生産拡大(仁淀川地域全域) 【実施主体】 ◎特用林産物生産団体	(1)シキミ・サカキ生産量16.5t(H30)	R2	17.0t	20.4t	S	1 栽培技術・品質の向上<シキミ・サカキ> ・栽培・防除技術の指導 ・栽培放棄地のマッチング、栽培放棄地台帳の整備 ・生産量調査による生産状況の情報収集 ・サカキ見本園の間伐実施及び指導 ・サカキ見本園の薬剤防除及び指導 ・中央西地区特用林産部会の開催	1 栽培技術・品質の向上<シキミ・サカキ> ・サカキ見本園整備に向けた調査及び打合せ:5回 ・栽培技術指導及び情報収集:17回 ・中央西地区特用林産部会の開催:2回 ・シキミ・サカキ栽培放棄地調査及びマッチング支援:2件	7.77t(9月末時点) ・R4目標達成率:86.3% ・対前年同期比:130.0% ※R3は裏年であったため	B	(成果) ・シキミ耕作放棄地2カ所のマッチングにつながった。 (課題) ・過疎、高齢化により耕作放棄地の増大 (今後の方向性) ・中山間地域の副収入源として、耕作放棄地を活用したシキミ生産量の拡大を図る。	1 栽培技術・品質の向上<シキミ・サカキ> ・栽培・防除技術の指導 ・栽培放棄地のマッチング、栽培放棄地台帳の整備 ・生産量調査による生産状況の情報収集 ・サカキ見本園の間伐実施及び指導 ・サカキ見本園の薬剤防除及び指導 ・中央西地区特用林産部会の開催
		R3	17.5t	13.9t	C							
		R4	18.0t									
		R5	19.0t									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
林業	(2)原木マイタケ生産量 0.5t (R元)		R2	0.6t	0.9t	S	1 栽培技術・品質の向上 ＜原木マイタケ＞ ・栽培、防除技術の指導 ・生産量調査による生産状況の情報収集 ・植菌原木の埋め込み実施及び指導 ・普及・販売イベントへの出店 (氷室まつり) ・殺菌・植菌の実施及び指導	1 栽培技術・品質の向上 ＜原木マイタケ＞ ・栽培技術指導及び情報収集：9回 ・中央西地区特用林産部会の開催：2回（再掲） ・原木及び種駒の購入の補助計画書の提出： クスギ原木700本、種駒70瓶	0.9t ・R4目標達成率：112.5% ・対前年同期比：180.0% ※R3は気温の関係で不作であったため	S	(成果) ・氷室の里の原木マイタケとして商品が県下に認知され、一定の販売先が確保された。 (気候等の影響により生産量は不安定な状況) (課題) ・生産規模拡大のための作業員の確保 (今後の方向性) ・顧客を一層確保し、生産規模を拡大する。	1 栽培技術・品質の向上 ＜原木マイタケ＞ ・栽培、防除技術の指導 ・生産量調査による生産状況の情報収集 ・植菌原木の埋め込み実施及び指導 ・普及・販売イベントへの出店 (氷室まつり) ・殺菌・植菌の実施及び指導
			R3	0.7t	0.5t	C						
			R4	0.8t	0.9t	S						
			R5	1.0 t								
	(3)菌床キラゲ生産量 9.0t (H30)		R2	15.0t	8.7t	D	1 栽培技術・品質の向上 ＜菌床キラゲ＞ ・生産量調査による生産状況の情報収集	1 栽培技術・品質の向上 ＜菌床キラゲ＞ ・栽培技術指導及び情報収集：4回 ・中央西地区特用林産部会の開催：2回（再掲）	7.95t (9月末時点) ・R4目標達成率：63.6% ・対前年同期比：100.3%	D	(成果) ・生産技術の販売先の確保により、安定した生産に向けて取り組むことができるようになった。 (課題) ・生産規模拡大のためのハウスや作業員の確保 (今後の方向性) ・顧客を一層確保し、生産規模を拡大する。	1 栽培技術・品質の向上 ＜菌床キラゲ＞ ・生産量調査による生産状況の情報収集
			R3	20.0t	11.3t	D						
			R4	25.0t								
			R5	30.0 t								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
林業	9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラープロジェクト (佐川町) 【実施主体】 ◎・佐川町 ◎・自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体 ※地域産業クラスター関連（佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化）	林業関連新規就業者数 17人 (H28～R元累計)	R2	5人	5人	A	1 自伐型林業の確立 ・地域おこし協力隊（自伐）の採用 ・町民向け研修・体験会の開催 ・地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の実施 2 さかわ産木材を活用したものづくりの推進 ・地域おこし協力隊（発明ラボ）の採用 ・放課後発明クラブの開催 ・町内木工事業者の販路拡大支援	1 自伐型林業の確立 ・地域おこし協力隊（自伐）の採用（4人） ・町民向け研修・体験会の実施 10/8～10 チェーンソー研修（9人参加） 10/22 間伐体験（1人参加） ・地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の実施（9月～1月、計8回実施予定） 2 さかわ産木材を活用したものづくりの推進 ・地域おこし協力隊（発明ラボ）の採用（2人） ・放課後発明クラブの開催 40回（11月末現在） （※3コース・各12人 計36人参加） ・町内木工事業者（3事業者）による日曜市への出店（6/26）	13人 ・R4目標達成率：86.7% ・対前年同期比：－	B (成果) ・毎年、継続した地域おこし協力隊の採用により、自伐型林業の担い手の増加につながっている。 ・地域おこし協力隊から卒業後も、町内への定着につながっている（自伐：16名・定着率62%、ラボ：6名・定着率60%） ・放課後発明クラブ等の取組を通じて、町内の子どもたちに木を使って作る楽しさや温もりを感じてもらうことで、ものづくりへの意識醸成につながっている。 ・町産材を活用した商品を日曜市で販売することで、町産材のPRにつながっている。 (課題) ・継続的かつ安定的な自伐型林業の施業環境づくり ・町産材を活用したものづくりの推進 ・学校教育・地域等と連携したものづくりを通じた人材育成 (今後の方向性) ・自伐型林業の施業地の確保状況に応じた地域おこし協力隊の採用 ・町民向け研修・体験会や、地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の継続開催 ・放課後発明クラブ等の開催によるものづくり人材の育成	1 自伐型林業の確立 ・町民向け研修・体験会の開催 ・地域おこし協力隊向けスキルアップ研修の実施 2 さかわ産木材を活用したものづくりの推進 ・地域おこし協力隊（発明ラボ）の採用 ・放課後発明クラブの開催	
			R3	10人	9人	B						
			R4	15人	13人	B						
			R5	20人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
		山林の集約化面積 225ha (H28～30累計)	R2	100ha	113ha	S	1 自伐型林業の確立（再掲） ・山林所有者へのアンケート実施 ・アンケート結果を踏まえた管理契約の締結 2 低質材の活用促進 ・低質材や広葉樹の利活用に向けた検討	1 自伐型林業の確立 ・山林所有者へのアンケート結果を踏まえ、所有者との山林の管理契約を締結し、山林の円滑な集約化を推進 2 低質材の活用促進 ・簡易製材機の導入（11/24）	265ha（11月末時点） ・R2～R4平均 目標達成率：99.4% ・対前年同期比：－	B （成果） ・山林の管理面積の集約化の推進により、山林の荒廃回避や有効活用、また地域おこし協力隊の卒業後の定着にもつながっている。 ・簡易製材機を導入することで、町産材を活用したもののづくりの仕組みの構築につながっている。 （課題） ・継続的かつ安定的な自伐型林業の施業環境づくり （今後の方向性） ・自伐型林業の施業地確保の推進 ・簡易製材機を活用したもののづくりの仕組みづくり	1 自伐型林業の確立 ・所有者へアンケートを実施し、山林の集約化を継続的に推進 ・管理契約締結済みの林地の施業方法の検討 2 低質材の活用促進 ・簡易製材機を活用したもののづくりの推進	
		R3	200ha	186ha	B							
		R4	300ha									
		R5	400ha									
水産業	10 宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化（土佐市） 【実施主体】 ◎・企業組合宇佐もん工房	販売額 0.9億円 (H30)	R2	1.2億円	1.2億円	A	1 販路拡大と販売促進 ・新規展示会や商談会の出展及び情報収集 ・ふるさと納税返礼品の取り組み強化 2 原材料の確保、新商品の開発 ・他魚種を使った新商品の開発・販売 ・企業とタイアップした商品の開発	1 販路拡大と販売促進 ・商談成約件数6件（4月～11月） ・地元スーパーとの企画商品「朝釣りカツオ」の全国発送（5月） ・関西圏の大型スーパー2社で漬け丼シリーズ販売開始（6月～） ・土佐市におけるふるさと納税返礼品の取り組み強化（通年） 2 原材料の確保、新商品の開発 ・地元スーパーのOEMで漬け丼新商品開発・販売（9月～）	7,814万円（11月末時点） ・R4 目標達成率：83.7% ・対前年同期比：105.8%	C （成果） ・商談成約件数6件 ・ギフトや株主優待品、ふるさと納税返礼品で漬け丼シリーズが好調 卸部門の売上は前年同期比113%の売上 ・土佐市におけるふるさと納税の返礼品の取扱件数 対前年同期比：1,075% ※R3年度まで土佐市のふるさと納税返礼品としての実績が僅少だったがR4年度は取り組み強化したことにより前年同期比では急増となった。 （課題） ・さらなる販路拡大と商品開発 ・原料となるうるめの安定確保 ・生産量増に対応するための生産性向上 （今後の方向性） ・うるめ不漁による売上げへの影響が大きい中、売上を伸ばしている他魚種を使用した商品の更なる販路拡大、販売促進に取り組む。	1 販路拡大と販売促進 ・新規展示会や商談会の出展及び情報収集 ・ふるさと納税返礼品の取り組み強化 2 原材料の確保、新商品の開発 ・他魚種を使った新商品の開発・販売 ・企業とタイアップした商品の開発	
		R3	1.3億円	1.05億円	C							
		R4	1.4億円									
		R5	1.5億円									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
水産業	11 宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化（土佐市） 【実施主体】 ◎・宇佐地区協議会 ・宇佐アサリ垂下式養殖プロジェクトチーム ・土佐市	-	R2	-	-	-	1 かぶせ網によるアサリ資源の保護・回復 ・土佐市内及び仁淀川広域内の小学生を対象とした潮干狩り体験の実施	1 かぶせ網によるアサリ資源の保護・回復 ・土佐市内小学生を対象とした潮干狩り体験の実施 密度管理（4月） ・かぶせ網のモニタリング（7月） ・かぶせ網による資源の回復策を継続中 ・宇佐地区協議会による協議（9月、10月）	-	-	(成果) - (課題) ・保全活動のかぶせ網交換が最優先となりその他の事業が後回しになっている。 ・国の補助金からの自立後の事業計画と組織体制の整備 (今後の方向性) ・国の補助金からの自立を目指し、宇佐地区協議会の一般社団法人化が決定。保全活動をしながら採取したアサリの販売や潮干狩り事業を展開し地域の活性化を目指す。	1 かぶせ網によるアサリ資源の保護・回復 ・土佐市内及び仁淀川広域内の小学生を対象とした潮干狩り体験の実施 2 アサリ資源を活かした経済活動の推進 ・R6年度の経済活動の開始に向けて事業計画等の検討
			R3	-	-	-	2 アサリ資源を活かした経済活動の推進	2 アサリ資源を活かした経済活動の推進				
			R4	-	-	-	3 アサリの垂下式養殖	3 アサリの垂下式養殖 ※上記2、3は取り組みなし (上記の経済活動が可能となるのが補助金終了後)				
			R5	-	-	-						
水産業	12 土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興（土佐市） 【実施主体】 ◎・(株)土佐マリンベース ・和光商事(株)	(1)売上高 - (H30)	R2	-	-	-	1 産地加工体制の構築 ・地域事業者との連携	1 産地加工体制の構築 ・地域事業者との連携 ・株式会社みなみ丸と2次加工商品の製造委託について打合せ（5月30日、7月12日、11月29日、12月16日） タイ、カンパチ、プリの一次加工の受注を開始 ・株式会社四国健商とOEM生産について打合せ（8月4日、8月30日） カツオ、カンパチ、タイの炙り商品(冷凍)の受注を開始 ・宇佐もん工房と面談調整中（11月29日） タイ、カンパチの一次加工の受注を開始	5,700万円（11月末時点） ・R4目標達成率：38.0% ・対前年同期比：-	-	(成果) ・16名の雇用（正規13名、パート3名） 6月1日より本格操業開始 (課題) ・流通形態や生活様式の変化に対応した新商品の開発 ・加工原魚（養殖魚）の不足 ・販路の開拓 (今後の方向性) ・天然魚の加工量増などを検討 ・加工技術の向上による作業効率のアップ	1 産地加工体制の構築 ・地域事業者との連携 2 商品開発 ・流通形態や生活様式の変化に対応した新商品の開発、地元産品を活用した新商品の開発 3 県外での販路拡大 ・輸出に向けたHACCPの取得 ・輸出に必要な施設登録の実施 ・商談会への出展による販路開拓
			R3	-	-	-	2 商品開発 ・流通形態や生活様式の変化に対応した新商品の開発、地元産品を活用した新商品の開発	2 商品開発 ・流通形態や生活様式の変化に対応した新商品の開発、地元産品を活用した新商品の開発 ・株式会社四国健商と新商品を共同制作中（8月4日）				
			R4	3億円			3 県外での販路拡大 ・輸出に向けたHACCPの取得 ・商談会への出展による販路開拓	3 県外での販路拡大 ・輸出に向けたHACCPの取得 ・HACCP導入のためのアドバイザーの招致＆社内研修（9月13日） ・JFCO水産加工施設HACCP認証取得に向けたアドバイザーの招致申請（10月11日） ・高知県食品衛生協会による書類作成指導（10月13日） ・商談会への出展による販路開拓 ・第24回インターナショナル・シーフードショー出展（8月24～26日） ・True World Foods Expo 2022出展（9月18日） ・沖縄大交易会出展（11月24日）				
			R5	3億 1,800万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】										
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画										
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析											
商 工 業	13 「土佐和紙」の販 売促進と保存・継承 (土佐市、いの町、仁淀 川町、日高村) 【実施主体】 ◎手すき和紙協同組合 ◎高知県製紙工業会 ◎いの町紙の博物館	(1)土佐和 紙販売額 5.5億円 (H30)	R2	6.45億円	4.8億円	C	※仁淀川地域に限らず「土佐和紙 総合戦略」として全県的に行っ ている取り組みを含む(以降同じ)	1 土佐和紙の原料確保 ・楮生産者の状況調査(8月に実施) ・楮の試験栽培実施中(民間事業者の協力を得て採石場 内の土地を利用)	-	(販売額調は年1回)	-	(成果) ・日曜市出店や高知蔦屋書店にて いの町フェア(土佐和紙ワーク ショップ)等によるPR・販売促進の 取り組みを実施することができた。	※仁淀川地域に限らず「土佐和 紙総合戦略」として全県的 に行っている取り組みを含む(以 降同じ)									
			R3	6.63億円	4.56億円	D	1 土佐和紙の原料確保 ・楮生産者の状況調査(地域特産物 調査) ・高知市地域における楮の試験栽培	2 用具の確保と土佐和紙生産者の後継者育成 ・土佐和紙の人材育成において伝統的工芸品産業等後継者 育成対策事業費補助金の活用を検討している事業者との 協議、関係機関との調整						-	(課題) ・土佐和紙生産(原料、用具、 紙すき)の担い手確保 ・土佐和紙の知名度向上	1 土佐和紙の原料確保 ・楮生産者の状況調査(地域 特産物調査) 2 用具の確保と土佐和紙生 産者の後継者育成 ・伝統的工芸品産業等後継者 育成対策事業費補助金を活 用した後継者育成						
			R4	6.81億円			2 用具の確保と土佐和紙生産者の 後継者育成 ・伝統的工芸品産業等後継者育成 対策事業費補助金を活用した 後継者育成	・いの町における用具(簀、桁)の貸出し実施(R4の利用 実績 現時点でなし)									-	(今後の方向性) ・本年度は現行「土佐和紙総合 戦略」の最終年度にあたるため、 これまでの取り組みの総括及び R5年度以降の取り組みについて 協議を行うことで、改めて課題分析 と今後の方向性の検討を行う (現在実施中)	・用具(簀、桁)の貸出し ・用具保存会との協議			
			R5	7.0億円			・用具(簀、桁)の貸出し ・用具保存会との協議	3 土佐和紙のPR・販売促進・新商品の開発 ・日曜市出店によるPR(4/3、6/12、7/24、8/21) ・紙の博物館にて触れて感じるワークショップ(R4.5~10) ・高知蔦屋書店にていの町フェア開催、土佐和紙ワークショップ :こいのぼりと和紙のガーランド作り実施(5/1)												-	16事業体 ・R4目標達成率:80.0% ・対前年同期比:94.1%	3 土佐和紙のPR・販売促進・新 商品開発 ・県文化施設等での土佐和紙PRと 販売 ・土佐和紙に関する研究の実施 ・日曜市出店によるPR・販売拡大 ・県文化施設等での企画展開催 ・土佐和紙展に向けた検討会の実施 ・新商品開発等のための技術支援 ・伝統産業デジタルパンフレットの作成 ・イベントの開催
			R2	18	17	B	3 土佐和紙のPR・販売促進・新 商品開発 ・県文化施設等での土佐和紙PRと 販売	・紙のこいのぼり(5/3~5/5) ・県庁地下生協前等での土佐和紙製品販売 (いの町事業者)(6/15、7/21、8/16、17、9/21、22、 10/19、20、11/9、17、12/7、8)														
	R3	19	17	B	・土佐和紙に関する研究の実施 ・日曜市出店によるPR・販売拡大 ・県文化施設等での企画展開催	・土佐和紙を含む高知県の伝統的工芸品等のデジタル パンフレット作成(本年度中に完成予定) ・製紙工業会による観光列車へのウェットティッシュ寄贈 ・紙の博物館で仁淀ブルー体験博「親子で体験!仁淀川のア ユをモチーフにした和紙ハガキづくり」実施(9/25、10/9)	-	B	4 土佐和紙文化の発信と無形文化遺産登録 ・第36回紙とあそぼう作品展開催(7/18~8/14) ・夏休み子ども教室(7/23、24、8/18) ・製紙工業会による「土佐和紙及び県内製紙業について」の 出前授業(高岡中学校)(12/5)													
	R4	20			・土佐和紙展に向けた検討会の実施 ・新商品開発等のための技術支援 ・伝統産業デジタルパンフレットの作成 ・イベントの開催	・Kami祭(11/23) ・紙の博物館にて夜の紙博(11/19、20、23) ・製紙工業会によるJR観光列車「時代の夜明けのものがたり」 へのポケットティッシュ寄贈				-	B	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議の開催 (第1回:5/27、第2回:9月開催 予定) ・土佐和紙生産量の実態調査の実施										
	R5	20			・教育現場での土佐和紙の学習・啓 発活動 ・土佐和紙保存会と協議 ・紙の博物館での企画展開催	4 土佐和紙文化の発信と無形文化遺産登録 ・第36回紙とあそぼう作品展開催(7/18~8/14) ・夏休み子ども教室(7/23、24、8/18) ・製紙工業会による「土佐和紙及び県内製紙業について」の 出前授業(高岡中学校)(12/5)							-	B	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議の開催 (第1回:5/27、第2回:9/15) ・土佐和紙振興対策推進会議PT準備会の開催 (第1回:9/29、10/4、7、13) ・土佐和紙生産量のR4実態調査は次年度実施に向け準備							
	R2	18	17	B	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議の開催 (第1回:5/27、第2回:9月開催 予定) ・土佐和紙生産量の実態調査の実施	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議の開催 (第1回:5/27、第2回:9/15) ・土佐和紙振興対策推進会議PT準備会の開催 (第1回:9/29、10/4、7、13) ・土佐和紙生産量のR4実態調査は次年度実施に向け準備										-	B	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議 の開催 ・土佐和紙生産量の実態調査 の実施				
	R3	19	17	B	・教育現場での土佐和紙の学習・啓 発活動 ・土佐和紙保存会と協議 ・紙の博物館での企画展開催	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議の開催 (第1回:5/27、第2回:9/15) ・土佐和紙振興対策推進会議PT準備会の開催 (第1回:9/29、10/4、7、13) ・土佐和紙生産量のR4実態調査は次年度実施に向け準備													-	B	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議 の開催 ・土佐和紙生産量の実態調査 の実施	
R4	20			・教育現場での土佐和紙の学習・啓 発活動 ・土佐和紙保存会と協議 ・紙の博物館での企画展開催	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議の開催 (第1回:5/27、第2回:9/15) ・土佐和紙振興対策推進会議PT準備会の開催 (第1回:9/29、10/4、7、13) ・土佐和紙生産量のR4実態調査は次年度実施に向け準備	-	B	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議 の開催 ・土佐和紙生産量の実態調査 の実施														
R5	20			・教育現場での土佐和紙の学習・啓 発活動 ・土佐和紙保存会と協議 ・紙の博物館での企画展開催	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議の開催 (第1回:5/27、第2回:9/15) ・土佐和紙振興対策推進会議PT準備会の開催 (第1回:9/29、10/4、7、13) ・土佐和紙生産量のR4実態調査は次年度実施に向け準備				-	B	5 全般 ・土佐和紙振興対策推進会議 の開催 ・土佐和紙生産量の実態調査 の実施											

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	14 ドラゴン広場を核とした高岡商店街の活性化(土佐市) 【実施主体】 ◎・土佐市商工会 ・土佐市	施設直販市での販売額 5,438万円(H30)	R2	5,150万円	5,262万円	A	1 高岡商店街への来場者を増加させる仕組みづくり ・定期的なテナント会の開催による集客策の検討 ・施設を活用したイベント等の再開と継続 ・R5年度に策定する商店街振興計画に向けた準備(市民アンケートの実施と分析) ・今後の施設運営の方向性検討	1 高岡商店街への来場者を増加させる仕組みづくり ・毎月テナント会の開催(4月～11月) ・商店街振興計画関係者による協議(4月～11月) ・商店街振興計画に向けてドラゴン広場に係る市民アンケートを実施(6月～9月) ・ビアホールによる集客(8月～9月全3回) ※コロナ感染拡大のため中止 ・忘年会ビアホール開催(12月)	2,708万円(11月末時点) ・R4目標達成率:71.9% ・対前年同期比:98.2%	C (成果)(11月末時点) ・来場者数:48,096人(前年同期比:91%) (課題) ・ドラゴン広場の安定的な運営 ・継続的な集客に繋げるための施設の魅力づくり、品揃えの充実、情報発信。 ・高岡商店街及び周辺地域を巻き込んだ地域活性化 (今後の方向性) ・市民アンケートの結果を分析し、商店街振興計画の核としての今後の施設運営を検討していく。	1 高岡商店街への来場者を増加させる仕組みづくり ・土佐市中心市街地活性化協議会を中心とした商店街振興計画の策定 ・商店街振興計画と絡めたイベント実施や施設運営 ・テナントが一体となった集客策の検討	
			R3	5,400万円	4,822万円	B						
			R4	5,650万円								
			R5	5,900万円								
商工業	15 いの町中心市街地の活性化(いの町) 【実施主体】 ◎・いの町 ◎・いの町商工会 ※地域産業クラスター関連(いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト)	中心市街地での事業所の新規開業15事業所(H28～R元累計)	R2	2事業所	3事業所	S	1 中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み ・アクションプランの実行 2 地域産業クラスターの取り組み(いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト) ・芽生姜のしそ酢漬け販売に向けた調整 ・生姜焼き街道のSNS発信強化 3 イベント等開催によるにぎわいの創出 ・商店街でのイベント開催 4 町内への開業の誘致 ・空き店舗家賃補助事業 ・空き店舗等活用事業費補助制度 ・支援制度の見直し	1 中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み ・アクションプランの見直しに向けた協議会開催(6/29) ・産振ADを導入し協議会ワーキング開催(8/31、9/28) ・第2期いの町中心市街地活性化計画の策定・実行(R4.12～) 2 地域産業クラスターの取り組み(いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト) ・いの町生姜生産・販売拡大クラスターPT会 2回 ・クラスター事業実施主体との関係者協議 9回 ・芽生姜のしそ酢漬け 商品化に向けた試作開始・配合確定 ・しそ酢漬けの衛生面について工業技術センターへ相談、pH測定、官能評価、菌検査等の実施 ・芽生姜のしそ酢漬け完成→ここにこ館、イベントでの販売 ・生姜焼き街道のSNS(インスタグラム)での発信強化(週1回投稿) 3 イベント等開催によるにぎわい創出 ・いのまちなかスタンプラリー(5/4) ・いの町商店街よさこい交流演舞(8/7、10/16) ・まちなかバスケットボールinINOTOWN(10/10) ・Kami祭(11/23) 4 町内への開業の誘致 ・空き店舗家賃補助事業(5軒)(R4.12月現在)	3事業所(12月末時点) ・R4目標達成率:200.0% ・対前年同期比:75.0%(前年同期:4店舗)	S (成果) ・第2期いの町中心市街地活性化計画の策定 ・生姜焼き街道のSNS発信強化 ・商工会前町有地を活用したイベント開催(いのまちなかスタンプラリー、まちなかバスケット) (課題) ・中心市街地活性化計画を持続可能なものにしていくためのキーマン及びプレイヤーの発掘・育成及び各関係機関の連携体制の構築 ・活用可能な空き店舗の発掘及び情報発信 (今後の方向性) ・第2期いの町中心市街地活性化計画の確実な実行	1 中心市街地活性化計画実行に向けての取り組み ・計画の実行 2 地域産業クラスターの取り組み(いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト) ・芽生姜加工品の販売強化 ・規格外生姜の無償提供の取り組みの広報強化 3 イベント等開催によるにぎわいの創出 ・商店街でのイベント開催 4 町内への開業の誘致 ・空き店舗家賃補助事業 ・空き店舗等活用事業費補助制度 ・支援制度の見直し	
			R3	2事業所	5事業所	S						
			R4	2事業所								
			R5	8事業所(R2～R5累計)								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	16 地域産品を活用した冷菓等の製造販売(いの町) 【実施主体】 ◎・(有)高知アイス	冷菓等の販売額 4.9億円(H30)	R2	5.6億円	3.73億円	D	1 販路拡大と販売促進 ・各種商談会・展示会等への出展 ・TVなどメディアによる宣伝広告の実施 ・インターネット販売強化のための人材育成 ・商社を通じた海外小売店への販売強化 ・海外市場へのさらなる販路拡大に対応するための英語が堪能な営業人材の確保 2 観光客や工場見学者などへの販売強化 ・地元小学校など少人数の工場見学の受入 ・店舗スタッフ人材育成による店舗の魅力向上 ・Instagramを活用した売店の魅力発信 3 新商品の開発 ・果汁や皮を使った新商品の検討 ・香川大学教授と連携したサプリメント開発の検討	1 販路拡大と販売促進 ・商談会参加(8回) ・事業戦略等推進事業費補助金(6月) 展示会参加、オンラインショップの広告枠、動画作成、Instagram広告、人材育成 ・アイス祭りを開催(6月) ・英語、タイ語が堪能な営業人材を確保 2 観光客や工場見学者などへの販売強化 ・工場見学受入4件(JA高知県約20名7月、jobカフェ8名9月、日下小約20名10月、浦ノ内小約35名10月) ・売店キャッシュレス決済導入 3 新商品の開発 ・「映画クレヨンしんちゃん」コラボパッケージあいすもなか販売開始(4月) ・「怪獣8号」タイアップアイスリンチョコ販売開始(12月) ・PB商品製造開始(八剣伝、JAL国際線、徳島ゆず)	3.626億円(11月末時点) ・R4目標達成率:87.0% ・対前年同期比:87.8%	(成果) ・商談会による取引開始件数3件(フィリピン、中国、タイ) (課題) ・社内のDX化による業務の効率化 ・ゆずの栽培管理 ・原材料の安定確保 (今後の方向性) ・搾汁施設の安定操業 ・人員の確保 ・こうちSDGs登録	1 販路拡大と販売促進 ・各種商談会・展示会等への出展 ・インターネット販売強化 ・海外市場へのさらなる販路拡大 2 観光客や工場見学者などへの販売強化 ・地元小学校など少人数の工場見学の受入 ・店舗スタッフ人材育成による店舗の魅力向上 ・Instagramを活用した売店の魅力発信 3 新商品の開発 ・搾汁施設の安定した操業 ・果汁や皮を使った新商品の検討 ・香川大学教授と連携したサプリメント開発の検討	
			R3	6億円	4.29億円	C						
			R4	6.25億円								
			R5	6.5億円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	17 仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化(仁淀川町) 【実施主体】 ◎・MUKAI CRAFT BREWING(株) ・仁淀川町	クラフトビール販売額	R2	700万円	370万円	D	1 製造及び販売体制の強化 ・地域おこし協力隊との連携(人員体制の強化) ・県工業技術センターへの成分分析と官能評価の依頼 2 積極的な販売促進活動 ・町内外のイベントやキャンプ場などへの出店販売 ・県版HACCP新第2ステージの認証取得に向けた準備 3 ブランド化戦略の実践 ・関係機関との定例会を開催し、情報共有を図るとともに販売戦略などを協議 ・クラフトビールの新商品開発	1 製造及び販売体制の強化 ・繁忙期等における地域おこし協力隊の補助(4~10月) ・インターネット販売(4月~) ・日高村地域おこし協力隊の受入れ(7月~) ・町と連携した雇用者確保に向けた取組*(12月~) *空き家物件調査開始 2 積極的な販売促進活動 ・ふるさと納税の取扱い(4月~) ・高知市、仁淀川町でのイベント販売(7~8月、10月) ・BSテレ東「都会を出て暮らそうよ BEYOND TOKYO」(8/24)で発信 3 ブランド化戦略の実践 ・仁淀川町、集落活動センターしもなの郷、観光協会、商工会等との定例会の開催(4月~) ・クロモジを使用した新商品「89」の販売開始(8月~) ※「89」の由来: 町内の森林率 ・期間限定商品の販売開始 *町産ホップ使用「仁淀フレッシュ」(9月~) *「マンモスレイクス」(10月~)	1,393万円(10月末時点) ・R4目標達成率: 171.3% ・対前年同期比: 151.8%	S	(成果) ・ネットやふるさと納税の返礼品として継続的に販売展開を図ることにより新規顧客の獲得につながっている。 ・新商品の開発・販売、期間限定商品の販売によりブランド力の向上につながっている。 (課題) ・安定した生産体制の構築 ・品質管理と衛生管理の確立 (今後の方向性) ・成分の数値化(県工業技術センターの分析)による製造技術の向上 ・品質管理と衛生管理により安全性と品質の確保	1 製造及び販売体制の強化 ・新規雇用に向けた検討(人員体制の強化) ・県工業技術センターによる成分分析と官能評価の活用 2 積極的な販売促進活動 ・町内外のイベントやキャンプ場などへの出店販売 ・県版HACCP新第2ステージの認証取得に向けた準備 3 ブランド化戦略の実践 ・関係機関との定例会を開催し、情報共有を図るとともに販売戦略などを協議 ・クラフトビールの新商品開発
			R3	1,150万円	1,343万円	S						
			R4	1,220万円								
			R5	1,300万円								
	会計年度: 3~2月											

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (%)	現状分析	
商 工 業	18 仁淀川町における (株)フードプランを核とし たカット野菜事業クラス タープロジェクト (仁淀川町) 【実施主体】 ◎・(株)フードプラン ・仁淀川町 ・生産者団体 ・庭先集荷の農家	(株)フードプランの 販売額 7.4億円 (R元)	R2	8億円	8.2億円	A	1 生産能力の拡大 ・人員体制の強化（ベトナム人実習生、特定技能外国人の確保） ・消費期限延長による需要増を見据えた工場稼働時間延長の検討（深夜稼働） 2 販路拡大、商品開発 ・中四国エリアの販路拡大に向けた商談会等への出展や営業活動の展開 ・消費期限の延長に向けた取組 ＊野菜洗浄機（ライオンハイテック(株)）の導入に向けた協議や視察(東京) ・野菜の端材を活用した新商品開発 3 原料供給体制の強化 ・町内農家と連携した加工用ネギの栽培 ・工場隣地での水耕栽培事業との連携（農福連携事業の推進）	1 生産能力の拡大 ・実習生1名の技能実習から特定技能への移行（5月） ※従業員70名 11月末時点 （正社員15名、パート43名、技能実習生9名、特定技能3名） 2 販路拡大、商品開発 ・四国内の外食事業者との取引開始（4月～） ・ライオンハイテック(株)へ野菜洗浄機の視察（5月） ・野菜洗浄機の展示会（東京）への視察（6月） ・ライオンハイテック(株)で野菜の洗浄機を試用（10月） ・窒素充填機の試用（11月） 3 原料供給体制の強化 ・町内農家による加工用ネギの栽培 ・農福連携による水耕栽培施設の整備計画 国(栽培施設)：9/27交付決定、10月～施設整備開始 県(休憩・トイレ)：9/16交付決定、10月～施設整備開始	8.8億円 ・R4目標達成率：94.6% ・対前年同期比：102.9%	B (成果) ・技能実習から特定技能への移行者の確保により体制強化につながっている。 ・農福連携による水耕栽培施設の整備計画が着実に進み、竣工に至った(1/21)。 (課題) ・生産性の向上に向けた安定した雇用の確保 ・近畿、関東圏への販路拡大に向けた輸送ルートの確保や消費期限の延長 ・産地形成による県内産野菜の安定調達に向けた仕組みづくりの構築 ・端材を活用した高付加価値商品の開発及び販売 (今後の方向性) ・実習生の募集等による人材確保 ・消費期限の延長策とそれに伴う販路拡大の検討 ・農福連携事業による水耕栽培施設の整備 ・端材を活用した商品の検討・試作	1 生産能力の拡大 ・人員体制の強化（ベトナム人実習生、特定技能外国人の確保） ・消費期限延長による需要増を見据えた工場稼働時間延長の検討（深夜稼働） 2 販路拡大、商品開発 ・中四国エリアの販路拡大に向けた商談会等への出展や営業活動の展開 ・県外企業と連携した消費期限延長に向けた検討 ・野菜洗浄機（ライオンハイテック(株)）の実証試験 ・野菜の端材を活用した新商品開発 3 原料供給体制の強化 ・町内農家と連携した加工用ネギの栽培 ・工場隣地での水耕栽培事業との連携(農福連携事業推進)	
			R3	8.6億円	8.5億円	B						
			R4	9.3億円	8.8億円	B						
			R5	10億円								
	会計年度：10～9月											

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	19 仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進(仁淀川町) 【実施主体】 ◎・(株)ビバ沢渡 ◎・(株)池川茶園 ◎・トトレ(株) ・仁淀川町	(株)ビバ沢渡の販売額5,200万円(H30)	R2	8,000万円	5,630万円	C	1 茶等を原料とした6次産業化の推進 ・新商品の開発、商品改良、店舗で提供する新メニューの開発 ・商談会への出展やイベント出店による販路拡大・情報発信 ・高知県地場産大賞への応募 ・県版HACCP新第2ステージの認証取得に向けた準備 2 (株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化 ・観光アクティビティ事業の検討 ・川の家オープン(観光事業者と連携した飲食ブース) 3 後継者及び担い手の確保・育成 ・農業部門(茶)、飲食部門(本店・2号店・川の家)、加工品製造部門(商品開発)、営業部門(商談)での繁忙時期に応じた人員の配置転換	1 茶等を原料とした6次産業化の推進【ビバ沢渡】 ・サンシャイン、菊水酒蔵との共同開発商品の販売「ほうじ茶ラテ風味リキュール」(5月～) 「紅茶ラテ風味リキュール」(12月～) ・とさのさとでのイベント販売(11月) ・サンシャイン、菊水酒蔵との共同開発によるクッキー、ビスコッティ等の焼菓子の販売開始(12月～) ・蔦屋書店内のポップアップショップにおける「クッキーボックス」の販売(12月) 【池川茶園】 ・高知銀行による「高知の魅力発信プロジェクト」を活用した商品改良(5月～9月) →「茶畑ティラミス 濃かぶせ茶」の販売開始(10月～) 土佐茶スイーツコンテストで優秀賞を受賞(11月) ・高知大丸でのイベント販売(6月、12月) ・サニーマート、毎日屋での取引開始(8月～) ・とさのさとでのイベント販売(11月) 【トトレ】 ・企業等からの要望に対応した商品開発(4月～) ・「84ヒノキウォーター(ルームミスト)」の販売開始(10月～) ・新商品発表会(11月) ・「マイボトルのためのお茶」、「牧野植物園オリジナルブランドティー Mishimasaike」の販売開始(11月～) ・冬季限定の摘み草ブレンドティー「b&b」の販売(12月～) 2 (株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化 ・体験型観光アクティビティ事業実施に向けた協議(4月～) ※産振AD制度の活用 経営改善計画の策定(9/16～) 観光周遊計画の策定(11/24～) 3 後継者及び担い手の確保・育成 ・本店の閑散期を利用した焼き菓子の製造(12月～)	4,776万円(10月末時点) ・R4目標達成率：70.8% ・対前年同期比：102.0%	C	(成果) ・新商品の開発やイベントへの出店などにより誘客及び販売促進につながっている。 ・町内での体験型観光を推進するための機運が高まり、計画づくりが概ね整いつつある。 (課題) ・ブランド力の向上に向けた新商品開発やプロモーション活動による情報発信の強化 ・産業を維持するための後継者及び担い手の確保 ・町内で体験型観光を推進するための組織体制の強化や、アクティビティ事業の財源確保対策	1 茶等を原料とした6次産業化の推進 ・新商品の開発、商品改良、店舗で提供する新メニューの開発 ・商談会への出展やイベント出店による販路拡大・情報発信 ・県版HACCP新第2ステージの認証取得に向けた準備
			R3	8,500万円	6,260万円	C						
			R4	9,000万円								
			R5	1億円								
		(株)池川茶園及びトトレ(株)の販売額4,700万円(H30)	R2	4,750万円	4,870万円	A	2 (株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化 ・体験型観光アクティビティ事業実施に向けた協議(4月～) ※産振AD制度の活用 経営改善計画の策定(9/16～) 観光周遊計画の策定(11/24～) 3 後継者及び担い手の確保・育成 ・本店の閑散期を利用した焼き菓子の製造(12月～)	4,066万円(10月末時点) ・R4目標達成率：110.6% ・対前年同期比：102.7%	S	(今後の方向性) ・新商品や新メニューの開発の継続 ・町内の茶生産事業者及び地域住民との連携による労働力の確保 ・体験型観光を推進するためのアクティビティ事業の実現化	2 (株)ビバ沢渡による施設整備及び経営の持続化 ・持続可能な経営を目指し、定期的な経営状況の把握 ・体験型観光のアクティビティ事業の展開 3 後継者及び担い手の確保・育成 ・(株)ビバ沢渡の各部門間での繁忙期等に応じた弾力的な人員配置 * 農業部門(茶)、飲食部門(あすなる)、加工品製造部門(商品開発)、営業部門(商談)	
			R3	4,800万円	5,140万円	A						
			R4	4,900万円								
			R5	5,000万円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	20 さかわの地乳(ぢち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進 (佐川町) 【実施主体】 ◎・(有)吉本乳業 ・地元商工業者 ・地元酪農家 ・佐川町商工会 ・佐川町 ・JA高知県(仁淀川地区)	牛乳類商品販売額 1.06億円 (R元)	R2	1.20億円	1.10億円	B	1 佐川の地乳(ぢち)を使った加工品の開発及び販売促進 ・地乳を活用した新商品開発 ・既存商品の磨き上げ(さかわの地乳プロジェクト会) ・さかわの地乳プロジェクト会の開催 2 牛乳加工施設の整備及び販路拡大 ・県版HACCP新第2ステージ認証取得に向けた準備 ・各種商談会への出展による販路拡大 ・地乳まつり等イベントへの参加による地乳PR	1 佐川の地乳(ぢち)を使った加工品の開発及び販売促進 ・地乳を活用した土産品の販売開始(6品) ・さかわの地乳プロジェクト会の開催時期の検討 2 牛乳加工施設の整備及び販路拡大 ・県版HACCP新第1ステージの認証に向けた資料のブラッシュアップ(R4.3月申請済)	1.15億円	・R4目標達成率:82.1% ・対前年同期比:97.4%	C (成果) ・地乳を活用した商品販売により地乳の認知度が向上している。 ・地乳を使用する県外の飲食店も増えており、販路が拡大している。 (課題) ・地乳を活用した新商品の開発及び商品のPR強化 ・地乳ブランド確立に向けた推進体制強化 ・持続可能な経営基盤の強化 ・衛生管理体制の強化 ・販路拡大に向けた商談会等での販売促進 (今後の方向性) ・地乳を活用した新商品の開発検討 ・道の駅を活用した地乳ブランドのPR ・県版HACCP認証に向けた資料のブラッシュアップ ・各種商談会への出展による販路拡大	1 佐川の地乳(ぢち)を使った加工品の開発及び販売促進 ・道の駅を活用した地乳ブランドのPR強化 2 牛乳加工施設の整備及び販路拡大 ・県版HACCP新第一ステージ認証取得 ・各種商談会等への出展による販路拡大 ・経営改善策の検討
			R3	1.30億円	1.18億円	B						
			R4	1.40億円	1.15億円	C						
			R5	1.57億円								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト (佐川町) 【実施主体】 ◎・佐川町 ◎・(一財)しあわせづくり佐川 ※地域産業クラスター関連(佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化)	年間売上高 -	R2	-	-	-	1 道の駅施設の整備、体制強化 ・道の駅施設の本体工事 ・レストラン等のテナント業者決定 ・開業に向けた運営体制の構築 2 佐川町の特産品等の充実強化 ・地域資源を活用した商品・メニューの磨き上げ及び開発	1 道の駅施設の整備、体制強化 ・道の駅施設の本体工事 ※国交付金・産振補助金の活用(契約：6/9、工期：6/9～3/30) ・レストラン、ベーカリー、ファーストフードのテナント業者決定(4月) ・(一財)しあわせづくり佐川(運営組織)の職員雇用(6人)：店長1、総務1、経理1、ふるさと納税2、商品開発1 ・地域おこし協力隊の採用(2人)：物販・広報担当、加工室担当 2 佐川町の特産品等の充実強化 ・地域資源を活用した商品・メニューの磨き上げ及び開発のための打合せ(7/1、7/29、8/19) ・道の駅の柱となるオリジナル商品の開発 産振アドバイザー制度活用(6/20～21、8/5)	-	-	(成果) ・道の駅施設の整備、体制強化が着実に進んでいる。 ・道の駅開業に伴い、町内の雇用が新たに創出されている。 ・「おもちゃ学芸員」という形で、町内外問わず多くの方が、道の駅事業に参画している。 ・地域資源を活用した商品開発により、新たな付加価値が生み出されブランド力の強化につながっている。 (課題) ・道の駅本体やおもちゃ美術館などの整備エリア一帯の円滑な整備 ・町全体の賑わいの創出につながる仕組みづくり ・地域資源を活用した魅力ある商品等の磨き上げ・開発 (今後の方向性) ・開業に向けた円滑な工事の実施 ・観光客の町内周遊に向けた仕組み作りのための関係機関との連携 ・町内商工業者等と連携した地域資源を活用した商品・メニューの開発 ・「売れる商品」の製造。販売に向け、産振アドバイザーからの指導を継続	1 道の駅施設の整備、体制強化 ・道の駅開業に向けた職員の雇用及び育成 ・「まきのさんの道の駅・佐川」の開業(R5.7月) ・町内関係機関及び仁淀川流域内関係機関と連携した物販、観光、情報発信機能等の強化 2 佐川町の特産品等の充実強化 ・町内商工業者等と連携した商品開発 ・地域資源を活用した道の駅オリジナル商品の販売(産振アドバイザー制度活用予定) ・企画等担当職員を雇用し、観光客の町内周遊に向けた仕掛け作りを実施 ・道の駅の観光案内窓口に観光情報担当職員を配置し町内観光情報やイベント情報を発信 ・SNS(ツイッター、インスタグラム)や、ホームページを活用した情報発信
			R3	-	-	-						
			R4	-	-	-						
			R5	2.5億円								
			R5									
		レジ通過者数 -	R2	-	-	-						
			R3	-	-	-						
			R4	-	-	-						
			R5	25万人								
			R5									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	22 「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化 （日高村） 【実施主体】 ◎・(株)村の駅ひだか ・日高村 ※地域産業クラスター関連（日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト）	直販市の販売額 2.11億円 (R元見込み)	R2	2.12億円	2.14億円	A	1 直販市の機能強化 ・村の駅ひだか出荷部会の定期的な開催 ・視察研修の実施 ・新たな特産品の開発 ・他地域の特産品の販売拡充 ・他地域の直販所との連携検討 ・店頭販売の実施	1 直売市の機能強化 ・村の駅ひだか出荷部会の開催：1回 ・村の駅ひだか取締役会の開催：1回 ・店頭販売の実施（村内事業者等）：27回 ・視察はコロナ拡大に伴い実施せず ・他地域の特産品も含めた販売商品の拡充	1.38億円（11月末時点） ・R4目標達成率：96.7% ・対前年同期比：106.4%	B	(成果) ・売上げ、レジ通過人数ともに対前年同期比が好調 ・販売商品の拡充 (課題) ・食品衛生法改正への対応 ・安定した直販市の運営（商品の品揃えの充実や出荷体制の確保） (今後の方向性) ・漬物製造事業者への対応 ・陳列棚の定期的な配置替え等の飽きさせない仕組みづくりの継続 ・道の駅さかわの開業に合わせた誘客策の検討	1 直販市の機能強化 ・村の駅ひだか出荷部会の定期的な開催 ・視察研修の実施 ・新たな特産品の開発 ・他地域の特産品の販売拡充 ・他地域の直販所との連携と差別化の検討 ・店頭販売の実施
			R3	2.13億円	2.02億円	B						
			R4	2.14億円								
			R5	2.15億円								
			R5	2.15億円								
		レジ通過人数 19万1千人 (R元見込み)	R2	19万1千人	18万1千人	B			119,660人 (11月末時点) ・R4目標達成率：93.0% ・対前年同期比：103.3%	B	(今後の方向性) ・漬物製造事業者への対応 ・陳列棚の定期的な配置替え等の飽きさせない仕組みづくりの継続 ・道の駅さかわの開業に合わせた誘客策の検討	1 直販市の機能強化 ・村の駅ひだか出荷部会の定期的な開催 ・視察研修の実施 ・新たな特産品の開発 ・他地域の特産品の販売拡充 ・他地域の直販所との連携と差別化の検討 ・店頭販売の実施
			R3	19万2千人	17万4千人	B						
			R4	19万3千人								
			R5	19万4千人								
			R5	19万4千人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (%)	現状分析	
23 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進（仁淀川地域全域）	【実施主体】 ◎・(一社)仁淀ブルー観光協議会 ・土佐市 ・いの町 ・仁淀川町 ・佐川町 ・越知町 ・日高村 ・(一社)土佐市観光協会 ・(一社)いの町観光協会 ・仁淀川町観光協会 ・(一社)さかわ観光協会 ・越知町観光協会 ・(一社)日高村観光協会	[~R3] 主要宿泊施設 の宿泊者数 : 62,232 人 (H30) ↓ [R4~] 宿泊者数 : 6.5万人 (R1)	R2	-	38,047人	-	1 魅力づくりの強化・推進 ・滞在型観光の推進、特産品や食の観光化の推進 ・仁淀ブルー体験博の開催 ・観光タクシープラン造成	1 魅力づくりの強化・推進 ・第3回仁淀ブルーライドの開催(5/29) ・観光コンベンション協会及び流域6市町村と連携し、映画「竜とそばかすの姫」公開1周年に合わせた特別記念上映会の開催(7/22) ・仁淀ブルー体験博の予約開始(8/19~) ・仁淀ブルー体験博の開催(9/23~11/26) 53プログラムを企画、造成 ・観光タクシーの利用推進 46件(9月末) (目標:100件 R3実績:36件) ・仁淀ブルースクエア(JR西佐川駅構内)での取扱い商品の充実 43点(9月末)(目標:40点 R3実績:35点) ・イベント出展による特産品のPR とさのさとアグリコレット(7月)、高知龍馬空港「ICHIBA」(9~11月)、学大マルシェ(10月)	4.8万人(10月末時点) ・R4目標達成率:126.6% ・対前年同期比:143.9%	S	(成果) ・SNS等を活用した情報発信により、ツアー送客数の増加 ・仁淀ブルー体験博を通じて地域資源を活用した体験メニューの磨き上げ・開発を促進 (課題) ・仁淀ブルー体験博等を通じて「仁淀ブルー」のネーミングを生かした体験や食など、ブランド化を図ることにより、滞在時間の延長につながる取組を検討 ・組織体制の強化に向けて市町村、観光協会の役割分担の明確化 (今後の方向性) ・仁淀ブルーDMOワーキングを通じた観光戦略推進のPDCAサイクルの実施 ・流域内での周遊実態の調査等各種マーケティング調査の実施及び調査結果に基づく滞在型観光プランを作成中 ・産振ADの助言・指導を受けて、関係者による組織体制の再構築	1 魅力づくりの強化・推進 ・滞在型観光の推進、特産品や食の観光化の推進 ・仁淀ブルー体験博の開催 ・観光タクシープラン造成 2 プロモーション・情報発信の強化・推進 ・旅行会社へのプロモーション ・メディアやマスコミを活用した情報発信の強化 ・ガイドブック「NIYODO BLUE」作成 ・SNS等を活用した情報発信の強化
			R3	-	45,553人	-	2 プロモーション・情報発信の強化・推進 ・旅行会社へのプロモーション ・メディアやマスコミを活用した情報発信の強化 ・ガイドブック「NIYODO BLUE」作成 ・SNS等を活用した情報発信の強化					
			R4	6.5万人			3 受入・おもてなし体制の整備強化・推進 ・観光の担い手確保・育成の強化、情報ネットワーク化推進 ・サステナブル・ツーリズムの推進					
			R5	6.6万人			4 6市町村連携による広域観光の強化・推進 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」を生かした観光客誘致と周遊促進の取組の推進 ・マーケティングデータ収集の強化 ・組織体制の強化及び関係機関等との連携強化					
							5 インバウンド観光の推進 ・魅力づくりの推進、受入に必要な環境や態勢の整備 ・プロモーションの推進					
							3 受入・おもてなし体制の整備強化・推進 ・「サステナブルな観光商品造成等委託業務」(県事業)を活用し、エリア内の観光商品について、選定 ・バスツアー助成金制度の制定 旅行会社:5社 送客数:75人 助成額:90,000円					
		[~R3] 主要観光施設等の 入込客数 : 252,397 人 (H30) ↓ [R4~] 入込客数 : 108.6万人 (R1)	R2	-	185,160人	-	2 プロモーション・情報発信の強化・推進 ・観光説明会、商談会への参加 高知県観光説明会「東京」(4/13) 阪急交通社国内旅行推進協会中四国支部商談会(6/1) 高知県観光説明会「福岡」(6/13) 高知県観光説明会「広島」(6/15) 牧野富太郎のふるさと・高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知県観光説明会「大阪」(9/14)	62.7万人(10月末時点) ・R4目標達成率:99.0% ・対前年同期比:119.6%	B		4 6市町村連携による広域観光の強化・推進 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」を生かした観光客誘致と周遊促進の取組の推進 ・マーケティングデータ収集の強化 ・組織体制の強化及び関係機関等との連携強化	
			R3	-	213,447人	-	高知県観光説明会「福岡」(6/13) 高知県観光説明会「広島」(6/15) 高知県観光説明会「大阪」(9/14) 高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知モニターツアー観光説明会(7/20)					
			R4	108.6万人			高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知モニターツアー観光説明会(7/20)					
			R5	111.8万人			高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知モニターツアー観光説明会(7/20)					
							高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知モニターツアー観光説明会(7/20)					
							高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知モニターツアー観光説明会(7/20) 高知モニターツアー観光説明会(7/20)					

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
観光	[R4～] 観光消費額 :1,248百万円 (R2)	R2	-	-	-		4 6市町村連携による広域観光の強化・推進 ・「おでかけウォッチャー」を活用し、観光客の移動ルートや滞在状況などの分析結果を新たな判断材料とするため、県事業であるデジタルデータ活用事業のワークショップに参加 第1回：7/19、第2回：7/28、第3回：9/28 第4回：12/5 ・「観光づくり人材育成事業」（県事業）を活用し、昨年度見直した滞在型観光プラン整備計画の拡充を図り、滞在型観光プランを作成 ・「観光商品造成等委託業務」（県事業）を活用し、エリア内の事業者の商品造成及び磨き上げをフォロー 6事業者12商品の磨き上げ、開発を実施 ・組織体制の強化に向けて産振AD制度の活用（9月～） 5 インバウンド観光の推進	1,029百万円 (10月末時点) ・R4目標達成率：95.0% ・対前年同期比：-	B			
		R3	-	-	-							
		R4	1,857 百万円									
		R5	2,102 百万円									
	[R4～] 来訪者満足度 :98% (R2)	R2	-	-	-			満足度：94.9% (9月末時点) ・R4目標達成率：96.8%	B			
		R3	-	-	-							
		R4	98%									
		R5	98%									
	[R4～] リピーター率 :46% (R2)	R2	-	-	-			リピーター率：49.0% (9月末時点) ・R4目標達成率：98.0%	B			
		R3	-	-	-							
		R4	50%									
		R5	50%									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	24 土佐市における体験型観光と食観光の推進（土佐市） 《事業主体》 ◎・(一社)土佐市観光協会 ・土佐市 ・宇佐ホエールウォッチング協会 ・土佐市ドラゴンガイドチーム	体験型・食観光における入込客数 2,143人 (H30)	R2	4,000人	1,555人	D	1 地域資源を活用した旅行商品化 ・既存体験メニューの受入 ・土佐市草花ガイド養成事業によるガイドの育成 ・ユニバーサルツーリズムの考え方を取り入れた観光情報の整備 ・フォトロゲイニングによる県外観光客の誘致（12月） ・サイクリング事業の検討（4月～） ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加（10月～11月）	1 地域資源を活用した旅行商品化 ・地域観光ガイドの育成と活用 ホエールウォッチング体験者数：1,460人 観光ガイド：4件42人（うち体験博2件20人） ・おもてなし室のバリアフリー観光に係る現地調査に同行 ・土佐市の健康都市宣言と連動させた「健康×観光」をコンセプトに「フォトロゲイニング」実施（12月） ・E-バイクを活用した新規事業の準備中。安全管理マニュアル作成準備、コース造り（7月～） ・仁淀ブルー体験博へのプログラム参加：7メニュー	1,705人（11月末時点） ・R4目標達成率：55.6% ・対前年同期比：129.4% ※新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れできなかった期間あり	D （成果） ・ユニバーサルツーリズムに関する情報整備のノウハウを学んだことで今後の体験メニューの企画やホームページに掲載する情報整備に生かしていく。 ・仁淀ブルー体験博の体験7メニュー72人参加 ・土佐市フォトロゲイニング実施49チーム151人参加 （課題） ・新たなガイドの募集・育成 ・ホエールウォッチングの船頭の確保 ・コロナ禍における安心安全な受入の継続 ・ユニバーサルツーリズムやE-バイク事業による新たな層の観光客の獲得 （今後の方向性） ・観光コンテンツが少なくツアー等の団体の誘客が困難なため、ユニバーサルツーリズムやロゲイニングなど新たな旅行者ニーズに応える商品開発に取り組んでいく。 ・E-バイク事業の推進により新しい層の観光客の獲得と周遊による市内事業者への波及効果も目指す。	1 地域資源を活用した旅行商品化 ・草花ガイド養成を生かしたガイド事業の充実 ・ガイドや船頭の担い手の人材確保に繋がる観光メニューの検討 ・ユニバーサルツーリズムの考え方を取り入れた観光情報の整備 ・サイクリング事業の安全な運用と安定的な集客策の検討・実施 ・食や観光を通じた移住推進事業の検討	
			R3	4,300人	1,279人	D						
			R4	4,600人								
			R5	5,000人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	25 観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化（土佐市） 【実施主体】 ◎・特定非営利法人 新居を元気にする会 ・土佐市	施設来客者数 19.2万人 (H30)	R2	21万人	15.4万人	C	1 観光客等の交流人口を増加させるための仕組みづくり ・スイカ・メロンフェアの開催 ・新居緑地公園を含めたイベントの開催 ・地域農家、仕入れ先との良好な関係構築による魅力ある商品の提供 ・SNSを活用した情報発信	1 観光客等の交流人口を増加させるための仕組みづくり ・定期的にキッチンカーを誘致し施設来場者数増加を図っている。(4月～) ・施設入り口に設置してあるコンテナで「南風のHAKO」営業開始。地元産メロンや地元塩職人の塩を使ったスイーツを販売(5月～) ・スイカ・メロンフェア(6/11～6/12)フェアに合わせてキッチンカーを3台誘致 来場者数：1,800人(2日間合計) ・店頭目玉商品となる季節のみかん・メロンセットを新商品として展開(12月～販売予定) ・高知大学と協働しウミガメの保護・展示。 佐川小学校、地元小学校生徒を対象に学習会を実施し交流人口増を図った。 ・療育施設の買い物体験に協力	85,201人(11月末時点) ・R4目標達成率：55.6% ・対前年同期比：87.1%	(成果)(11月末時点) ・1階直販所 レジ通過数36,256人 (前年比87%) 直販所売上2,639万円 (前年比104%) ・2階飲食店 レジ通過数12,956人 (前年比112%) 飲食店売上1,320万円 (前年比128%) ・緑地公園 来園者数74,544人 (前年比102%) (課題) ・定期的な集客イベントを開催するための体制づくり ・継続的な集客につなげるための品揃えの充実等店舗の魅力づくり ・イベント開催、施設運営のための新たな人材の確保 ・緑地公園来園者の施設への誘致(今後の方向性) ・直販所の品揃えの充実と安定的な供給で魅力的な店舗づくりをする。 ・誘客につながるイベントの主催や季節ごとのフェア、他団体のイベントの協力等、定期的な誘客策を実施していく。	1 観光客等の交流人口を増加させるための仕組みづくり ・地域産物を活用したフェアの継続と新規企画の検討 ・地域農家、仕入れ先との良好な関係構築による魅力ある商品の提供 ・直販所の安定した商品供給体制の構築 ・緑地公園来園者の施設への誘致策の検討・実施 ・SNSのフォロー増加を交流人口の増加に繋げる企画の検討・実施	
			R3	22万人	14.4万人	D						
			R4	23万人								
			R5	24万人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
観光	26 酔鯨酒造(株) 新工場を核とした体験型 観光の推進による地域 活性化(土佐市) 【実施主体】 ◎・酔鯨酒造(株) ・土佐市	施設来客者数 6,000人 (H30)	R2	6,300人	4,752人	C	1 見学体験施設等を活用したメニューの提供	1 見学体験施設等を活用したメニューの提供 ・併設カフェの新メニュー開発・発売(4月～) ・定期的な新メニューの開発・販売の継続	5,316人(11月末時点) ・R4目標達成率:115.6% ・対前年同期比:131.8%	S	(成果)(11月末時点) ・蔵見学の受入実績:17件 128人 ・ショップ売上額:1,673万円 (対前年比:126%) (課題) ・新たな受入メニューの開発・実施 ・二次交通機関と連携した県外観光客の誘客 ・地域と連携したイベントの開催 (今後の方向性) ・酔鯨のブランド価値を生かした体験メニューやイベントを観光客の誘客に繋げていく。 ・地域の事業者と連携した地域食材を活用したイベント等の検討	1 見学体験施設等を活用したメニューの提供
			R3	6,600人	6,026人	B	2 受入態勢づくり	2 受入態勢づくり ・新たな受入メニューの開発検討中だが、コロナウイルス感染症の状況で見合わせている				2 受入態勢づくり ・新たな受入メニューの開発
			R4	6,900人			3 誘客の推進 ・SNSやYouTubeを活用した商品、誘客の広報	3 誘客の推進 ・インフルエンサーによるSNSを活用した誘客の推進 (人気インフルエンサーによる定期的なSNSライブ配信の継続)				3 誘客の推進 ・SNSやYouTubeを活用した商品、誘客の広報
			R5	7,200人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画	
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析		
観光	27 いの町の地域資源 を活かした体験型観光 等の推進 【実施主体】 ◎・(一社)いの町観光 協会 ・いの町	体験参加人数 27,541人 (H30)	R2	26,600人	14,489人	D	1 体験メニューの販売促進 ・町内観光施設との連携 ・グリーンパークほどの魅力向上のための産振AD導入予定 ・いの町を楽しむ体験観光メニューづくり ・体験メニューの広報・発信強化 ・「竜とそばかすの姫」に関連する観光素材の有効活用 2 イベント等の開催 ・仁淀川・商店街でのイベント開催 ・仁淀ブルー体験博への参加 3 地域産品の販売促進 ・観光協会による特産品オンラインショップの運営 ・日曜日出店（れんげいこうちブース） ・イベントへの町内事業者出店奨励	1 体験メニューの販売促進 ・道の駅土佐和紙工芸村くらうど宿泊棟改修に併せた新規メニュー開発・検討協議（3回） ・くらうど宿泊棟改修工事（R4～） ・「竜とそばかすの姫」ロケ地や仁淀ブルーを巡る貸切タクシープラン→約36名利用 ・らんまんに絡めた里山エリアの受入環境整備の検討（博覧会受入環境等整備支援事業費補助金申請中） ・産業振興アドバイザー事業の活用（3回）→グリーンパークほどの更なる観光客増に向けた魅力向上による地域活性化について ・グリーン・パークほどの×mowcandleキャンドルプラン販売開始（併せてPR動画も配信開始）（R4.11～） 2 イベント等の開催 ・高知蔦屋書店にていの町フェア開催（5/1） ・紙のこいのぼり（5/3～5/5） ・いのまちなかスタンプラリー（5/4） ・高知龍馬空港にていの町・土佐市フェア（5/1～6/30） ・テラスdeこここBBQ（蔦屋書店でこここ館の出張バーベキュー実施）（6/25） ・銀橋マルシェ（8/14） ・土佐の豊穰祭 神楽と鮎と酒に酔うin仁淀ブルー2022（10/8） ・仁淀川国際水切り大会（10/9） ・まちなかバスケットボールinINOTOWN（10/10） ・Kami祭（11/23） ○グリーンパークほどの ・流しそうめん作りとスイカ割り体験（8/28） ・森のお茶会 in グリーン・パークほどの（11/19） ○仁淀ブルー体験博 【伊野地区】夜のいの町の楽しみ方をサクッとほしご酒でご案内！他7プラン→全参加者数：68人 【吾北地区】紅葉の四国のナイアガラ、程野の滝！2つの滝巡り→参加者数：12人 ・まちあるきガイドクラブによる「いの町おいしいまちめぐり」マップ作成 ・まちあるき企画『小学生の夏の自由工作 “紙の工房見学と染めもの体験”』(8/5)→参加者数：6人 ・まちあるき企画『世界を旅する蝶 アサキマダラに出会う加茂山ハイク』(10/22)→参加者数：8人 3 地域産品の販売促進 ○観光協会による特産品オンラインショップ ・あかうしキャンペーン、手箱きじフェア ・送料無料キャンペーン（11/1～12/31注文分）	17,969人 （11月末時点） ・R4目標達成率：89.8% ・対前年同期比：124.1% （前年同期：14,478人）	B	（成果） ・まちあるきガイドクラブによる「いの町おいしいまちめぐり」マップ作成 ・いの町外への積極的なPR ・グリーン・パークほどの×mowcandleキャンドルプラン販売開始（併せてPR動画も配信開始） （課題） ・各主要観光施設毎の利用者動向分析及び対応策の検討 ・天候に左右されない体験メニュー開発 （今後の方向性） ・体験メニューの現状分析、利便性向上に向けた検討 ・体験博を経て造成された体験メニューを通年提供できるメニューに育てていく	1 体験メニューの販売促進 ・町内観光施設との連携 ・いの町を楽しむ体験観光メニューづくり（体験博で掘り起こし→創生塾で磨き上げ・育成→対外的に売り出し・発信する流れを作る） ・体験メニューの広報・発信強化 ・「竜とそばかすの姫」に関連する観光素材の有効活用 ・らんまんに絡めた観光素材の発信 2 イベント等の開催 ・仁淀川・商店街でのイベント開催 ・仁淀ブルー体験博への参加 3 地域産品の販売促進 ・観光協会による特産品オンラインショップの運営 ・日曜日出店（れんげいこうちブース） ・イベントへの町内事業者出店奨励	
			R3	29,000人	18,542人	D							
			R4	30,000人									
			R5	30,100人									
		体験メニュー 売上高 5,175万円 (H30)	R2	5,080万円	3,207万円	D							
			R3	5,815万円	3,835万円	D							
			R4	5,873万円									
			R5	5,931万円									
			主要観光施設 入込客数 374,801人 (H30)	R2	397,400人	296,598人		C					
		R3		407,300人	360,649人	B							
		R4		411,500人									
		R5		415,800人									
									4,058万円 （11月末時点） ・R4目標達成率：103.6% ・対前年同期比：174.8% （前年同期：2,322万円）	A		3 地域産品の販売促進 ○観光協会による特産品オンラインショップ ・あかうしキャンペーン、手箱きじフェア ・送料無料キャンペーン（11/1～12/31注文分）	
								289,530人 （11月末時点） ・R4目標達成率：105.5% ・対前年同期比：108.9% （前年同期：265,914人）	A				

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	28 いの町本川地区での山岳観光の推進(いの町) 【実施主体】 ◎・いの町 ◎・(一社)いの町観光協会	道の駅木の香温泉・山荘しらさ・木の根ふれあいの森の利用者数 52,705人(H30)	R2	53,000人	38,494人	C	1 観光施設と連携した体験型観光の推進と施設の整備 ・しらさ野営場再整備事業プロジェクトチームの設置 ・山荘しらさ内に『山の案内所』開設 2 新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化 ・『山の案内所』を活用した情報発信 ・ホームページやSNS、メディア等による情報発信 ・森林軌道、冬山、E-bike等の新たな観光素材の活用 ・(株)ソラヤマいしづち、(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス ・仁淀ブルー体験博等を通じた『BLU Montino』の周知と利用拡大 ・緊急時対応マニュアルの策定	1 観光施設と連携した体験型観光の推進と施設の整備 ・第1回しらさ野営場再整備検討委員会を開催(4/26) ・地域おこし協力隊員3名を新たに配置し、山荘しらさ内に「山の案内所」を開所(5月) 来所者数 782名(4月～11月) ・しらさ野営場再整備に向けた基本構想策定委託業務を締結(業務期間：7/15～2/28) 2 新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化 ■観光資源の掘り起こしと体験メニューの商品化 ・UFOラインウォーク(4月)12本 214人 " (12月)28本 446人 ・森林軌道跡ツアー(4月)最少催行人数に至らず中止 " (11月)7名 ・瓶ヶ森、石鎚山登山ツアー(5月、しらさ貸切)1本 12名 " (10月)1本 15名 ・旅行会社向けファミツアー(5月、7月、10月)3本 20名 ・瓶ヶ森ツアー(7月、8月、10月)4本 74名 ・山の案内所ワークショップ(8月)6日間 20名 ・UFO遭遇チャレンジツアー(9月)11名 ・スターナイト×UFOラインツアー(10月)1本 40名 ・紅葉×UFOラインツアー(11月)3本 18名 ・関西企業社員研修(11月、しらさ宿泊・山の案内所ワークショップ)1本 10名 ・山の案内所イベント(11月)2本 19名 ■山の案内人の養成・ガイドの実践 ・定例会の開催 2回 ・仁淀ブルー体験博 2本 23名 ・「らんまん」関連イベントの検討 ■インターネット・SNSを活用したPR・情報発信 ・いの町Instagram・いの町観光協会FBでの情報発信 38件(本川地区分) ・山の案内所インスタでの情報発信221件 ■雪上車コンテンツにかかる緊急時を含む運行管理マニュアル等を作成・関係機関等との協議済み。事業実施に向けた準備を開始(12月)	48,873人(11月末時点) ・R4目標達成率：120.8% ・対前年同期比：117.4% ・41,647人(前年同期値)	S	(成果) ・山の案内所開設によるリアルタイムな情報発信回数の増加 ・UFOラインウォークの催行件数及び入込客数の増加に伴う地域経済への波及効果 (課題) ・観光施設の魅力向上 ・山岳観光地としての知名度の低さ ・新たな体験及び旅行商品不足 ・しらさ野営場再整備によるしらさ周辺の観光振興のさらなる推進 (今後の方向性) ・観光客を惹き付ける施設の魅力づくり ・山岳観光地としてのイメージを確立させるための情報発信の強化 ・地域資源を生かしたより魅力のある観光商品の造成・販売 ・山の案内人組織『BLU Montino』のPR	1 観光施設と連携した体験型観光の推進と施設の整備 ・しらさ野営場再整備にかかる基本構想をもとにした検討 2 新たな体験資源を活用した体験メニューの検討と商品化 ・『山の案内所』を活用した情報発信 ・ホームページやSNS、メディア等による情報発信 ・森林軌道、冬山、E-bike等の観光素材の活用及び磨き上げ ・(株)ソラヤマいしづち、(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス ・仁淀ブルー体験博等を通じた『BLU Montino』の活動支援 ・山中家住宅を活用した体験イベントの実施
			R3	60,000人	52,385人	B						
			R4	60,700人								
			R5	61,500人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	29 仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実(仁淀川町) 【実施主体】 ◎・仁淀川町観光協会 ・仁淀川町 ・仁淀川町内の地域づくり団体	主要観光施設等入込数 76,000人 (H30)	R2	76,400人	56,149人	C	1 関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信 ・安居渓谷、中津渓谷、ひょうたん桜の観光スポットへライブカメラの設置 ・役場、地域づくり団体等と連携した情報共有、仁淀川町観光協会を主体とした報告会の定期開催 ・観光協会による観光案内所機能の強化 2 施設整備や接客スキル向上等によるおもてなし観光の推進 ・滞在型観光に向けた検討会の定期開催 ・仁淀川町観光ガイド養成講座の開催	1 関係機関等と連携した効果的な観光情報収集・発信 ・仁淀川町観光報告会の開催(4月～) ・交通警備員と観光協会が情報共有し、駐車場の空き情報をSNS発信するなどの混雑緩和 ・鳥形山森林植物公園における草花分布調査、資料撮影(5月、6月、8月) ・鳥形山森林植物公園モニターツアーの実施(11月) ・とさのさとでのイベントを活用した観光情報発信(11月) ・安居渓谷、中津渓谷、ひょうたん桜にライブカメラ設置(12月) 2 施設整備や接客スキル向上等によるおもてなし観光の推進 ・町内事業者へのアンケート調査結果、今後の方向性等についての報告会(9月) ・ガイド用インカムの導入(10月) ・鳥形山森林植物公園における草花の写真のデータ化(11月) ・鳥形山森林植物公園モニターツアーを活用したマニュアル作成の指導(11月) ・ガイド用タブレットの導入(12月) ・牧野植物園と連携したガイド育成(12月)	55,386人(10月末時点) ・R4目標達成率:123.6% ・対前年同期比:103.2%	S	(成果) ・SNSを活用した駐車場の空き情報の情報発信により観光客の利便性向上につながっている。 (課題) ・町内観光施設への周遊促進 ・観光ガイドの人員と体制の強化 (今後の方向性) ・観光情報収集・発信の継続 ・滞在型観光の推進 ・県博覧会受入環境等整備支援事業費補助金を活用した受入体制の強化	＊R5年度に追加する新規地域APIに「統合」 ・町では、観光客に町内を周遊してもらい滞在時間を増やすため、R5から新アクティビティ事業の展開に併せて、「滞在交流型観光」を推進
			R3	76,600人	65,377人	B						
			R4	76,800人								
			R5	77,000人								

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	30 佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進 (佐川町) 【実施主体】 ◎・佐川町 ◎・(一社) さかわ観光協会 ◎・佐川町内の地域づくり団体・個人	上町地区への入込客数 31,225人 (H30)	R2	32,000人	15,954人	D	1 観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり ・牧野富太郎博士生誕160周年記念事業の開催 ・佐川高校生による町歩きガイドの実施 ・さかわ・酒蔵ロード劇場の開催 ※3年ぶりの有観客開催 ・「牧野富太郎博士顕彰事業推進協議会」の開催 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」に向けた「牧野富太郎博士顕彰事業」のキービジュアル、ロゴマークの発表(9/15) ・NHK連続テレビ小説「らんまん」に向けた町内観光施設「牧野富太郎ふるさと館」等のブラッシュアップ(1月実施予定) ・「佐川の歴史勉強会」(くろがねの会)開催(5/21~22、延べ23名参加) ・外国人観光客の受入体制強化に向けた英語勉強会(くろがねの会)の実施(毎週火曜日) 2 体験型観光の推進 ・体験型博覧会「わんさかわっしょい体験博」の開催 3 青山文庫の施設整備 ・青山文庫改修方針の検討 ・青山文庫企画展の開催	20,355人(11月末時点) ・R4目標達成率:87.2% ・対前年同期比:163.2% ※NHK連続テレビ小説「らんまん」放送予定に伴う佐川町の認知度向上と、県の「高知観光トク割キャンペーン」の実施によるもの	B	(成果) ・牧野富太郎博士生誕160周年記念事業の開催や、観光資源を活用した取組などにより、佐川町の認知度の向上につながっている。 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送に伴う観光客の受け入れのため、関係者間で連携が強まっている。 ・ガイド研修の実施によりガイドのスキルが向上し、多くの観光客の受け入れにつながっている。 ・歴史的価値のある資料を良質な状態で保存し、より多くの人に見て学んでもらえるような施設改修の検討が進んでいる。	1 観光資源の利活用、おもてなしの体制づくり ・観光資源を活用した取り組みの継続 ・NHK連続テレビ小説「らんまん」に係る観光客受け入れ体制の整備 ・観光ガイドのスキル向上を目指したガイド研修の実施 2 体験型観光の推進 ・わんさかわっしょい体験博の開催 ・地域資源を活用した体験プログラムの創出 3 青山文庫の施設整備 ・青山文庫の改修方針の検討	
			R3	33,000人	18,180人	D						
			R4	35,000人								
			R5	40,000人								
			R2	5,100人	695人	D						
		R3	5,300人	1,909人	D							
		R4	5,400人									
		R5	5,500人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	31 越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進 (越知町) 【実施主体】 ◎越知町観光協会 ◎おち駅物販経営協議会 ◎越知町 ・JA高知県(仁淀川地区) など	おち駅での販売額 1.0億円 (H30)	R2	1.10億円	1.33億円	S	1 観光物産館おち駅の利用者拡大 ・おち駅物販経営協議会で経営状況や課題の共有、その課題への対応検討(月1回) ・ふるさと納税を通じた地場産品の情報発信 ・秋の収穫祭(新高梨)の開催(10月) ・感謝祭の開催(年末) ・文旦まつりの開催(2月) ・ふるさと納税サイトの追加(4つ) ・キャッシュレス決済の導入(12月) ・新商品の開発(1~2月)	1 観光物産館おち駅の利用者拡大 ・おち駅物販経営協議会で経営状況や課題の共有、その課題への対応検討(月1回) ・アニメツアー協会公式の御朱印スタンプを設置(7月) ・ふるさと納税を通じた情報発信 ・ふるさと納税サイトの拡大(5サイト) ・ふるさと納税返礼品の拡大(36商品) ・秋の収穫祭(新高梨)の開催(10月) ・新米フェアの開催(11月) ・新商品(大判焼)の製造・販売(11月~) ・キャッシュレス(ペイペイ)決済の導入(12月)	0.61億円(11月末時点) ・R4目標達成率:83.2% ・対前年同期比:90.0%	C	(成果) ・ふるさと納税サイト数や返礼品を拡大し、情報発信の強化・充実を図ること、寄附件数が増加し、越知ブランドの認知度向上につながっている。 (課題) ・地域間での競争激化に伴いふるさと納税の取扱関連の売上が減少傾向(対前年同月比) (今後の方向性) ・ふるさと納税関連のより魅力のある返礼品の開発	1 観光物産館おち駅の利用者拡大 ・おち駅物販経営協議会で経営状況や課題の共有、その課題への対応検討(月1回) ・ふるさと納税を通じた地場産品の情報発信 ・秋の収穫祭(新高梨)の開催(10月) ・感謝祭の開催(年末) ・文旦まつりの開催(2月)
			R3	1.10億円	1.06億円	B						
			R4	1.10億円								
			R5	1.10億円								
		横倉山自然の森博物館入館者数 6,507人 (H30)	R2	8,800人	6,187人	C	1 横倉山のさらなる魅力向上 ・観光協会にてOTAを活用した横倉山トレッキングツアーの販売 ・博物館友の会会員の増加とリピーター獲得に向けた観察会等の実施 ・博物館にて企画展を実施(年4回) ・さらなる誘客に向け、設備投資の検討 ・博物館ホームページの開設 ・博物館へ地域おこし協力隊(学芸員)の着任(4月) ・博物館HP等を活用した情報発信 ・高知大学学芸員実習生の受入(夏休み) ・さんしんGO!による発信(9/4) ・新規ガイドの増加を目的に、観光協会による横倉山トレッキングツアーガイド養成研修会を実施(12回) ・牧野富太郎博士の生誕160年を記念するイベントにて、横倉山トレッキングツアー実施(10/15、定員40人) ・博物館にて新展示物の公開(9月)	1 横倉山のさらなる魅力向上 ・観光協会にてOTAを活用した横倉山トレッキングツアー販売(利用者146人) ・博物館友の会会員の増加とリピーター獲得に向けた観察会等の実施(27回、262人) ・博物館にて企画展を実施(3回) ・博物館のHPを開設し情報発信(4月~) ・博物館へ地域おこし協力隊(学芸員)の着任(4月~) ・高知大学学芸員実習生3名の受入(9、10月) ・さんしんGO!にて横倉山トレッキングツアーの取り組みや横倉山自然の森博物館を発信(9/4) ・博物館オリジナルグッズの販売開始(4月~) ・アニメ映画「竜とそばかすの姫」の竜のモニュメントを博物館3階へ設置(7/22~) ・新規ガイドの増加を目的に、観光協会による横倉山トレッキングツアーガイド養成研修会を実施(7回、42人) ・滝上町×越知町児童交流にて、横倉山トレッキングツアーの利用受入(7月) ・高校生の修学旅行にて横倉山トレッキングツアーの利用受入(50人) ・牧野富太郎博士の生誕160年を記念するイベントにて、横倉山トレッキングツアーを実施(38人) ・仁淀ブルー体験博にて、横倉山トレッキングツアーを実施(9人)	7,382人(11月末時点) ・R4目標達成率:117.8% ・対前年同期比:192.6%	S	(成果) ・様々な取り組みにより情報発信の強化・充実を図ったことにより、入館者数の増につながっている。 ・着任した地域おこし協力隊による新たな講座の実施を通して、友の会の会員増によりリピーター獲得にもつながっている。 (課題) ・リニューアルしたHPでの効果的な情報発信 (今後の方向性) ・HPやSNSを使った情報発信をさらに強化。 ・博物館内の設備リニューアルの検討・実施。	1 横倉山のさらなる魅力向上 ・観光協会にてOTAを活用した横倉山トレッキングツアーの販売 ・博物館友の会会員の増加とリピーター獲得に向けた観察会等の実施 ・博物館にて企画展を実施(年4回) ・博物館HP等を活用した情報発信 ・高知大学学芸員実習生の受入(夏休み)
	R3		9,100人	6,101人	D							
	R4		9,400人									
	R5		9,700人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
	カヌー・ラフティング利用者数 1,694人 (H30)		R2	2,100人	1,429人	D	1 カヌー、ラフティングの利用者拡大 ・OTAを活用した商品販売(冬期以外) ・SNS等を活用した情報発信 ・研修等での活用に向けた企業提案 ・繁忙期における外注ガイドの確保に向けた取り組み	1 カヌー、ラフティングの利用者拡大 ・OTAを活用した商品販売(冬期以外) ・SNS等を活用した情報発信 ・研修等での活用に向けた企業提案 ・外注ガイドの確保に向けた取り組み ・グランピングイベントにてラフティングの受入 ・滝上町×越知町の児童交流によるカヌー、ラフティングの受入(7月) ・高校生の修学旅行にてラフティングの利用受入(1回、30人)	1,777人(11月末時点) ・R4目標達成率:115.9% ・対前年同期比:162.1%	S (成果) ・OTAを活用したカヌーやラフティングツアー商品の販売展開により利用者の利便性が高まり、交流人口の拡大につながっている。 (課題) ・川の冬期活用が難しく、集客が見込めない。 (今後の方向性) ・外注ガイドの確保 ・現状の取り組みを継続しつつ、川の冬期活用方法を検討	1 カヌー、ラフティングの利用者拡大 ・OTAを活用した商品販売(冬期以外) ・SNS等を活用した情報発信 ・研修等での活用に向けた企業提案 ・外注ガイドの確保に向けた取り組み	
R3			2,200人	1,096人	D							
R4			2,300人									
R5			2,400人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	32 越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (越知町) 【実施主体】 ◎越知町 ・(株)スノーピーク	キャンプ場利用者数 9,526人 (H30)	R2	10,920人	8,295人	C	<ul style="list-style-type: none"> 1 キャンプ場の運営と誘客促進 2 拠点（キャンプフィールド・かわの駅）合同周年祭の開催（4/9.10） ・スノーピークウェイの開催（4/16.17） ・スターターキャンプの開催（5/21.22） ・グランピングイベントの開催（5/28.29） ・雪峰祭の開催（春・秋） ・研修等での活用に向けた企業提案 ・キャンプフィールドの住箱周辺の環境整備（階段の修繕） ・仁淀ブルー体験博にて会場の提供（3プログラム） ・秋冬キャンプ体験会の実施（11/12.13、11/19.20、12/10.11） ・スタッフキャンプイベントの実施（12/17.18、1/21.22、2/18.19、3/11.12） 	<ul style="list-style-type: none"> 1 キャンプ場の運営と誘客促進 ・研修等での活用に向けた企業提案（利用：6件115人） ・住箱周辺の環境整備（階段の修繕：7月） ・QRコード決済の運用開始（8/1～） ・SNSでのライブ配信やテント等の設営講習会を継続的に実施 ・2 拠点（キャンプフィールド・かわの駅）合同周年祭の開催（4/9.10） ・スノーピークウェイの開催（4/16.17） ・スターターキャンプの開催（5/21.22） ・グランピングイベントの開催し、地域食材をPR（5/28.29） ・雪峰祭の開催（6/4.5、10/15.16） ・秋冬キャンプ体験会の実施（11/12.13、11/19.20） ・スタッフキャンプイベントの実施（12/17.18） ・仁淀ブルー体験博にて会場の提供（3プログラム） ・イベントの会場提供および支援（1件） 	7,780人（11月末時点） ・R4目標達成率：106.5% ・対前年同期比：113.8%	A	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場運営に加え、各種イベントを実施することにより、利用者の満足度が向上するとともに交流人口の拡大にもつながっている。 ・研修等での企業利用により、閑散期の施設稼働率に寄与するとともに、交流人口の拡大にもつながっている。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閑散期等の施設稼働率の向上 ・新規の顧客獲得 <p>（今後の方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修等での活用に向けた企業提案に向け、継続的に取り組む。 ・SNSでのライブ配信や、テント等の設営講習会を継続的に実施することにより、スタッフの顔や人柄を知ってもらい、親しみが持てる施設としての雰囲気づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 キャンプ場の運営と誘客促進 ・スノーピークウェイの開催 ・スターターキャンプの開催 ・雪峰祭の開催（春・秋） ・企業研修等での活用を含め冬季活用に向けた商品提案
			R3	10,940人	8,530人	C						
			R4	10,960人								
			R5	10,980人								
		宮の前公園センターハウスレジ通過者数 23,000人 (R元見込)	R2	29,400人	17,883人	D	<ul style="list-style-type: none"> 1 地域情報の発信と経済効果の創出 ・広報おちやSNS等を活用した情報発信 ・スタッフ等による宮の前公園清掃活動の実施 2 拠点合同周年祭の開催（4/9.10） ・かわの駅にてテイクアウトマーケットの開催（年5回） ・雪峰祭の開催（春・秋） ・宮の前公園にてアウトドアイベント「おち・まち・そとあそび」の実施（3/18.19） 	<ul style="list-style-type: none"> 1 地域情報の発信と経済効果の創出 ・かわの駅にて、対象のマグ、ボトル類を購入した方にオリジナルブレンドコーヒー 1杯無料キャンペーンを実施（7/16～8/30） ・広報おちやSNS等を活用した情報発信 ・SNSでのライブ配信やテント等の設営講習会を実施 ・スタッフ等による宮の前公園清掃活動の実施（1回） ・イベント等でつながった事業者がMCをつとめる番組へ出演し、地域情報を発信（7月） ・2 施設を紹介するリーフレットを作成し、県内各地へ配布。愛媛県には、業者を通じてスーパーなどの各地へ備置き、28日間で3,000部を配布（7月）。 ・スノーピークが運営するWebメディア「THE SNOW PEAK WAY」にて、おち仁淀川スタッフ視点のコラム記事掲載。 	15,713人（11月末時点） ・R4目標達成率：72.7% ・対前年同期比：98.3%	C	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわの駅の営業時間を5月から短縮したものの、SNSを活用した情報発信等によって前年と同水準のレジ通過者数となっており、交流人口の拡大につながっている。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設認知度のさらなる向上 ・町内への経済波及拡大 <p>（今後の方向性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等を通じて、周辺地域の事業者との関係性をさらに深め、経済効果を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 地域情報の発信と経済効果の創出 ・広報おちやSNS等を活用した情報発信 ・スタッフ等による宮の前公園清掃活動の実施 ・雪峰祭の開催（春・秋） ・宮の前公園にてアウトドアイベント「おち・まち・そとあそび」の実施 ・町内事業者への経済波及効果をもたらす仕組みづくり
	R3		30,800人	20,469人	D							
	R4		32,400人									
	R5		34,000人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	33 日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進 (日高村) ◎・(一社)日高村観光協会 ・日高村	体験参加人数 1,370人 (H30)	R2	2,200人	2,307人	A	1 観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化 ・ガイドブックやホームページ、SNS、メディアを活用した観光情報の発信 2 体験型観光等の推進 ・(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス及び情報発信 ・ガイド人材の育成及び発掘 ・体験観光メニューの実施、開発 ・観光列車へのお手振りおもてなし	1 観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化 ・動画配信サイトを用いた地域資源の発信 ・SNSを活用した観光情報の発信 ・村内の宿泊・観光関係事業者を結びつけるための 2 体験型観光等の推進 ・日下川新規放水路を活用したインフラツーリズムのガイド研修を実施 ・らんまんに向けたガイド研修の受講 ・観光協会職員の増員 ・仁淀ブルー体験博における新規プランの造成 ・観光列車へのお手振りおもてなし	2,187人 (11月末時点) ・R4目標達成率：136.7% ・対前年同期比：111.1%	S	(成果) ・仁淀ブルー体験博用プランの実施 (日下新規放水路の見学など) ・新プランの実施(錦山バイキングモニターツアー) (課題) ・インフラツーリズムの推進 ・日下駅を活用した日高村への誘客促進機能の強化 (今後の方向性) ・日下新規放水路周辺施設の治水施設を活用した教育観光プランの造成 ・観光協会が運営主体となるECサイトの構築	1 観光情報の発信及び観光事業の推進体制強化 ・ガイドブックやホームページ、SNS、メディアを活用した観光情報の発信 2 体験型観光等の推進 ・(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した旅行会社等へのセールス及び情報発信 ・ガイド人材の育成及び発掘 ・体験観光メニューの実施、開発 ・観光列車へのお手振りおもてなし ・日下川新規放水路を活用した教育観光プランの造成と県内外へ向けた周知 ・錦山満天星キャンプ場の活用
			R3	2,300人	2,196人	B						
			R4	2,400人								
			R5	2,500人								
	小村神社 周辺イベント 来場者数 2,168人 (R元)	R2	2,200人	1,956人	B	3 小村神社及び国宝への観光客の誘致 ・小村神社大祭(11/15) ・日高村の文化財保存計画に基づく概要調査 ・文化財イラストマップの作成推進	2,180人 ・R4目標達成率：90.8% ・対前年同期比：126.4%	B	(成果) ・小村神社を含む村文化財の現況調査を行い、文化財イラストマップ作成に向けた情報収集ができた (課題) ・イベント時(国宝一般公開、わのわ会の市)以外の小村神社周辺の活用 (今後の方向性) ・文化財イラストマップの作成と複数の文化財を関連させた地域観光への取組	3 小村神社及び国宝への観光客の誘致 ・国宝を活用した新たなイベントの検討 ・文化財イラストマップの作成		
		R3	2,300人	1,725人	C							
		R4	2,400人	2,180人	B							
		R5	2,500人									

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (%)	現状分析	
観光	34 「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化 （日高村） 【実施主体】 ◎・(株)屋形船仁淀川 ◎・(一社)能津未来 ・日高村	屋形船乗船者数 6,076人 (H30)	R2	7,625人	2,710人	D	1 観光客の受入態勢の充実 ・村内事業者と連携した観光商品の販売 ・雨天時の代替メニューの造成等の検討 ・ガイド研修会への参加 ・能津集落活動センターミライエと連携した取り組みの検討、実施 2 国内外に向けた情報発信 ・OTAを活用した商品販売 ・日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会、(一社)能津未来と連携した情報発信 3 (一社)能津未来による集落活動センターの運営 ・(一社)能津未来による全体会や役員会等の実施 ・地域住民参画による飲食事業や観光事業等の展開 ・地域情報の発信 ・空き家情報の集約	1 観光客の受入態勢の充実 ・OTA経由での予約件数：225件（11月末時点） ・ロケットカード配布枚数：305枚（11月末時点） ・能津集落活動センターと屋形船の連携強化（集活利用者への屋形船利用のPR等） 2 国内外に向けた情報発信 ・Instagramでの情報発信 ・おはよう高知!や新聞での屋形船や集活センターの情報発信 3 (一社)能津未来による集落活動センターの運営 ・ランチの提供開始（4月～） ・バギー・カヤック体験再開(7月～11月) （利用人数：148名（11月末時点）） ・来客者数（レジ通過）：5,586人(11月末時点) ・錦山公園のキャンプ場等の管理(7月～)	4,191人（11月末時点） ・R4目標達成率：79.8% ・対前年同期比：176.1%	C （成果） ・対前年同期比では利用者増加 ・高知新聞等のメディアによる広報による新たな来客 （課題） ・屋形船の知名度の向上 ・外国人観光客を含む乗船客の満足度の向上 ・雨天や冬期（閑散期）の集客に向けた対策 ・精油体験事業の円滑な実施と誘客の仕組みづくり （今後の方向性） ・屋形船とミライエでのセット商品の造成検討 ・シーズン終了後のミライエ観光事業の検討 ・ミライエで食品加工の検討 ・高知FORESTVISION(株)による精油製造体験事業の実施	1 観光客の受入態勢の充実 ・村内事業者と連携した観光商品の販売 ・雨天時の代替メニューの造成等の検討 ・ガイド研修会への参加 ・能津集落活動センターミライエと連携した取り組みの検討、実施 ・高知FORESTVISION(株)による精油製造体験のための施設整備 2 国内外に向けた情報発信 ・OTAを活用した商品販売 ・日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会、(一社)能津未来、高知FORESTVISION(株)と連携した情報発信 3 (一社)能津未来による集落活動センターの運営 ・(一社)能津未来による全体会や役員会等の実施 ・地域住民参画による飲食事業や観光事業等の展開 ・地域情報の発信 ・空き家情報の集約	
			R3	7,750人	2,960人	D						
			R4	7,875人								
			R5	8,000人								

2 令和4年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取り組み	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト（佐川町） 4/15 交付決定</p>	<p>地域のハブ機能となる「まきのさんの道の駅・佐川」の整備</p>	<p>430,463 (50,000)</p>

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、18のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要(目指す姿)	取り組み状況		
仁淀川	農業	No.8 日高村トマト産地拡大クラスタープロジェクト	日高トマト生産団地の拡大の取り組みを核として、中山間複合経営拠点の整備とも併せ、関連するJA出荷場、農産品加工施設、直販所、地元レストラン等が連携し、クラスターの形成を図る。	これまでの取り組み(H28～R3)	トマト産地の確立のため、最新技術の研究及び導入、栽培技術の向上に向けた指導等、一貫した支援を行ってきた。また、トマトを活用した新たな加工品やオムライスメニューの開発に取り組むとともに、村の駅ひだかや、オムライス街道の参加店舗をはじめとする地元飲食店等による販売促進を行ってきた。栽培マニュアルの改訂を行い、マニュアルをもとにした現地指導の徹底により栽培技術の向上が図られた。また、トマトを活用した加工品の製造販売や宿泊施設の運営等を行う法人の経営力強化に向けた支援を実施するとともに、オムライス街道店舗による新メニューの開発(4件)や、新たな加工品の販売(1件)が進んだ。	
		関連する地域AP	No.3 日高村まるとブランド化 No.22 「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化		R4年度の取り組み	栽培講習会や現地検討会などによる栽培指導やIoT技術(環境制御機器導入)を活用した生産技術の向上及び担い手確保、また、トマトの加工品の販路拡大に向けた商談会への参加、オムライス街道事業の実施など日高村の知名度向上の取り組みと連携して、空き家情報の集約・改修や移住フェアへの参加による移住促進に取り組んでいる。
	農業	No.9 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト	いの町での生姜生産を核として、生姜の集出荷場整備を契機に、生姜生産農家、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、生産から販売、人材育成までの好循環を生み出す。	これまでの取り組み(H28～R3)	R4年度の取り組み	栽培技術の向上を支援し、露地生姜栽培面積は、順調に推移している。また、生姜を活用した新たな加工品やメニューの開発に取り組むとともに、町の生姜をアピールし町内での消費促進を図るため「生姜焼き街道」の取り組みを行ってきた。栽培講習会、GAP点検支援等の実施や、新規研修生の受入、シードシャッターの設置によるGAP取り組み強化などを行った。また、芽生姜を使った加工品(しそ酢漬け)の試作を行うとともに、高知市内でのイベント出店による生姜消費拡大に向けたPRを行った。
		関連する地域AP	No.4 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト			生姜の安定生産と販売拡大に向け、栽培講習会やGAP点検支援を行うとともに、新規就農者の経営安定支援等に取り組んでいる。また、「規格外生姜の無償提供によるメニュー開発」に向けた広報強化や「生姜焼き街道」のSNSでの情報発信に取り組んでいる。
	林業	No.10 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト	自伐型林業の取り組みを中心に、担い手の育成確保を含めた自伐型林業のビジネスモデルづくりのほか、町産材等を使ったモノづくりの人材育成や拠点整備、道の駅等の整備により町内の6次産業化を進める。	これまでの取り組み(H28～R3)	R4年度の取り組み	自伐型林業の推進に向け、地域おこし協力隊の採用や山林の集約化により、担い手や安定的・継続的な施業地の確保に向けて取り組んだ。また、ものづくりの拠点となる「さかわ発明ラボ」を開設するとともに、森林資源フル活用センター(仮称)や道の駅の整備に向けた検討を進めてきた。町では、大型プロジェクト(道の駅や図書館の整備、青山文庫の改修)を抱えていることから、森林資源フル活用センター(仮称)については整備計画そのものが凍結に至ったものの、低質材等の利活用に向けた検討を継続することとなった。また、発明ラボ等で加工された製品を販売する拠点となる、道の駅の整備に向けて策定された基本設計・実施設計を踏まえ、第1期工事(浄化槽の整備)が竣工した。
		関連する地域AP	No.9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト No.21 道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト			引き続き、自伐型林業を推進していくため、地域おこし協力隊の採用や山林の集約化により、担い手を確保するとともに安定的・継続的な施業環境づくりに向けた取り組みを進めている。また、森林資源フル活用センター(仮称)の整備計画については、R3の「凍結」状態から「中止」に至った。さらに、R5年7月のオープンを目指した「まきのさんの道の駅・佐川」については、第2期工事(本体工事)のR4年度内竣工及び円滑な管理運営に向け、取り組んでいる。
食品加工	No.11 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト	カット野菜事業を展開する(株)フードプランを仁淀川町での基幹産業として位置付け、事業の継続的な実施と販売拡大によって雇用の確保や農業者の所得向上につなげる。	これまでの取り組み(H28～R3)	R4年度の取り組み	新工場の整備を行うとともに(H30.3月完成)、町内(4戸)で加工用ネギの試験栽培を実施し、仁淀川町内での加工用の原料供給体制の強化(産地形成)に向けて取り組んだ(但し、R3に新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、清流市生産組合の定例会が中止となったため、生産者の振り起こしができなかった。)。また、新たな産地形成に向け、新工場の隣地で農福連携による水耕栽培事業の検討を進め、事業化を目指している。さらに、野菜の端材活用の観点から商品化(ドレッシング)を目指しているものの、長期の賞味期限の確保等の課題が明らかとなり、継続して商品開発に取り組んでいる。加えて、「きじ汁野菜鍋」の販売促進による観光振興の取り組みについてもこれまで検討してきたものの、コロナ禍における新しい生活様式に伴い、新たなニーズに対応するため、新たな事業展開について検討を進めている。原料供給体制の強化に向けて、清流市生産組合の定例会(2月)において、生産者の振り起こしを行う予定である。また、農福連携事業による水耕栽培施設(ハウス・休憩施設)が完成(R5.1月)、本格稼働を開始し、農福マルシェ(3/18・19)への参画に向けて準備を進めている。さらに、野菜の端材活用した商品化(ドレッシング)に向け、継続して取り組んでいる。加えて、新たに、アウトドア観光客へのご当地産品を通じた魅力の提供に向けて、検討を進めている。	
	関連する地域AP	No.18 仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト				

○地域産業クラスタープロジェクトの令和5年度の削除項目

地域	分野	クラスタープロジェクトNo.・名称	削除する理由
仁淀川	林業	No.10 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト	<p>本プロジェクトは、自伐型林業の取り組みを中心に担い手の育成・確保を含めた自伐型林業のビジネスモデルづくりのほか、町産材等を使ったものづくりに向けた人材育成や道の駅等の拠点整備を通して、6次産業化を推進するために立ち上げられたものである。</p> <p>町では、現在、大型プロジェクト（図書館や青山文庫の整備）を抱えており、人的資源や財政運営の観点から、本プロジェクトの中核的な施設となる「森林資源フル活用センター（仮称）」の整備について中止するに至ったものである。</p> <p>本プロジェクトが廃止となっても、県として、引き続き、林業振興・環境部が中心となった自伐型林業の推進に向けた支援（地域APNo.9を含む）や、町産品の販売・情報発信拠点として本プロジェクトの一翼を担うことになっていた道の駅（地域APNo.21）の整備計画の着実な実行に向けた支援を通じて、本プロジェクトが目指していた自伐型林業のビジネスモデルづくりや町内の6次産業化の推進を図ることができると考えられるため、削除する。</p>